

# 近畿双松会報

平成19年度会報  
(2007)

島根県立松江中学校  
島根県立松江高等学校  
島根県立松江北高等学校



# あさひたださす (赤山健児の歌)

西村房太郎 作詞

岩佐万次郎 作曲

The musical score is written on six staves in 2/4 time. The melody is simple and rhythmic, with lyrics written below each staff. The lyrics are: あーさひ たださす そうしょう の てんらい おーねに ひかりあ り なーみに くだくる みかづき の かーげに こゆうの しんをみ る てんちの せいをーみにしみ て せいきを のーぶる いちひやくね ん

一、

朝あさひ暾直刺す双松の 天籟胸に光あり  
浪に碎くる三日月の 影に古雄の真をみる  
天地の精を身にしめて 正気を舒ぶる壹百年

二、

瘴煙罩むる椰子の下 月に嘯く夕あり  
氷雪鎖す丘の上 北斗に吟ずる晨あり  
万里の風に浪搏ちて 大鵬の翼揮へよや

三、

嗚呼剛健と質実と 心の楯に執り持てば  
惡魔サタンの征矢も身にたたず 高く塞かかぐる我旗の  
靈光迷路メイズの闇を射て 理想の郷をてらすなり

四、

稜威輝く日の本の 国の礎さし固め  
東洋平和を保つべき 使命を負へる我等なり  
責務は重く身は輕し 起てや赤山健男児

# さんみゃくうかびて (松江高・松江北高等学校校歌)

土岐 善麿 作詞

高田 三郎 作曲

さわやかに ♩ = 100

*mf*

さん みゃくうかーび てはん とうみどりに さ

ざなみかがー やくみず のみやこ よ

*mp*

しんりのひかり を もとめゆくと き

*mf*

ちせいのそらはた かくひろく あ

*f*

おげばたー だし いずもふ じ

一、

山脈浮かびて 半島みどりに  
さざなみかがやく 水の都よ  
真理のひかりを 求めゆくとき  
知性の空は 高くひろく  
仰げば正し 出雲富士

二、

郷土の歴史を 深くもたたへて  
川風すがしく 渡す大橋  
千鳥の城あと 街はさかえて  
希望も新た かくて常に  
自由の道を 進むべし

三、

健康ひとしく いそしみはげみて  
世界の人たる 誇りにたたん  
友情かわらず 胸をひらきて  
こぞれりわれら 若く強く  
松江北高 ここにあり

## 赤山の歌

一、春日の南赤き丘 その丘の上に育ちたる

我が一千の男子等が 燃ゆる血潮に色どりし  
赤心の旗振りかざし 心を定めて立ちにけり

二、若駒いなゝき且つ踊り 放つ羽矢の末遠く

生死の境を超脱し 如何なる敵も馳せ抜きて  
あわれ榮ある香も高し 桂の枝を手折りけり

あゝ紅陵に（赤山応援歌）

一、ああ紅陵に正気あり 青春の子が熱血の

もろ手にかざす紅の 護国旗の色君見ずや  
わが当年のますらをが 鉄腕撫して立つところ  
穴道湖の空連勝の 覇業のはえに輝きぬ

二、干戈一度おさまりて 平和よしばし春の夢

唯三尺の剣を撫す 丈夫の悲情幾春秋  
飛躍をまちて幽谷に 臥竜の思い幾春秋  
越年の花吾知らず 唯営々の意気のと

三、されど高眠永からず 今壮快の晴いくさ

激浪十里燦として 乾坤どよむときの声  
ああ戦はん勝ちいくさ 栄えの歴史を飾るべく  
渾身の血は躍るなり 戦はんかな友よいざ

## 目 次

|                                  |             |    |
|----------------------------------|-------------|----|
| ごあいさつ 近畿双松会会長 .....              | 山本 雅昭 ..... | 3  |
| 双松会会長 .....                      | 松本 幹彦 ..... | 4  |
| 松江北高等学校校長 .....                  | 佐藤 健治 ..... | 6  |
| 平成18年度近畿双松会総会 .....              |             | 7  |
| 秋の行楽初企画「文楽鑑賞会」 .....             |             | 16 |
| 平成19年度ゴルフコンペ .....               |             | 17 |
| 平成19年度歴史ウォーキング「山辺の道ウォーキング」 ..... |             | 18 |
| 追 悼 .....                        |             | 21 |
| 特集① 世界陸上 大阪大会 .....              |             | 22 |
| 特集② ふるさと紀行 .....                 |             | 30 |
| 会員の寄稿 .....                      |             | 36 |
| クラス会便り（中61期、中68期、松高7期） .....     |             | 45 |
| 近畿双松会ホームページについて .....            |             | 48 |
| 近畿双松会総会 議案 .....                 |             | 49 |
| 会 則 .....                        |             | 50 |
| 会員数一覧 .....                      |             | 51 |
| 役員名簿 .....                       |             | 52 |
| 組 織 .....                        |             | 53 |
| 賛助金応募者 .....                     |             | 54 |
| 会計決算書 .....                      |             | 56 |
| 編集後記 .....                       |             | 57 |
| 広 告 .....                        |             | 58 |

# ご あ い さ つ

近畿双松会会長 山本 雅昭

今年も残すところ1か月余りとなりました。近畿双松会の皆様方におかれましては、今年もさぞ健やかな年をお過ごしのことであつたと拝察し、お慶び申し上げます。

さて、私事でございますが、5年前より毎回近畿双松会報の冒頭の“ご挨拶”をさせていただいておりました。和田亮介前会長から「しっかり走れよ」という励ましの言葉とともに近畿双松会会長の「たすき」を渡されました。先輩のご下命ゆえ、お引き受けすることになりました。

当時、松高1期の先輩・竹内一郎様から、当会の創立は昭和31年10月であつたこと、そして第1回総会以来、45年以上営々と続けられていること、これに携われた先輩のご苦勞、ご活躍とご助力について詳しく承ったことを思い出します。

旧約聖書の「箴言」に「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される」という言葉があります。近畿双松会も出身校を同じくする友が集うところです。力不足の私ではありましたが、「母校と郷里を懐かしく感じながら、癒しと安らぎを分かち合える会、そしてまた必要と感じた人たちが集まって来し方を振り返り合い、その人生を研磨し合える同窓会であってほしい」と念じながら、近畿双松会の会長を仰せつかつてから、今年ではや5年の年月が過ぎてしまいました。

この間、総会に松江北高卒業生の若い方たちの総会参加、近畿双松会報のリニューアルやホームページの制作、歴史ウォーキングや文楽鑑賞会など新しいレクリエーションの開始、バスツアーのとりやめなど、近畿双松会の活動には変化もございました。

さて、ここに嬉しいご報告がございます。母校は松江中学、松江高校、松江北高と3代に続いていますが、松江中学の方から見れば今年「孫」が誕生いたしました。つまり、松江北高第1期卒の永江幹雄君が来年度から会長の「たすき」を引き継いでくれることになりました。永江君は長年にわたり副会長として当会のお世話をしていただいております。このたび、再度無理を引き受けてくれた次第であります。私は、永江君は必ず当会に新しい風を吹き込んでくれると期待しております。

最後に当会の運営に格段のご助力を賜りました、副会長、役員、会員の皆様がたに心より御礼申し上げますとともに、ぜひ新会長をもり立てて、当会をますます発展させていただくよう、伏してお願い申し上げます。

# ご あ い さ つ

双松会会長 松本 幹彦

近畿双松会の皆様にはお元氣でご活躍のことと存じます。

昨年の11月18日、母校・松江北高等学校が創立130周年を迎えたことを祝して記念総会を開催いたしましたところ、全国各地から350名を超える多数の皆様がご参加くださって盛大に挙行することができました。特に、近畿双松会からは多数の皆様がご参加くださって総会を盛り上げていただき心から感謝いたしております。

さて、昨年の本誌には、母校の長い歴史の中で主な出来事の幾つかをご紹介させていただきました。本年度は創立130周年に因んで、明治9（1876）年3月18日に母校の前身であります松江教員伝習校変則中学科が創設された経緯とか、その当時の島根県の教育事情などを紹介して、あいさつに代えさせていただきたいと思います。

わが国近代教育の発祥は、明治5（1872）年8月2日に『学事奨励に関する仰せ出だされ書』が布告されたときとされています。『仰せ出だされ書』には、人々が学ばなくてはならないのは誰のためでもない、「身を立て其産を治め其業を昌<sup>さかん</sup>にして以て其生を遂げる」ためであると、きわめて実用主義的な発想のもとに、「自今以後一般人民必ず<sup>むら</sup>邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめん事を期す」と、国民皆学をめざした高い理想を掲げています。文部省は、これと同時に学制を制定し、6歳以上の男女に小学校に通わせることするとともに、近代教育推進の担い手である教員の養成を図るための教員伝習校を設置することを定めました。

島根県では、明治8年4月14日、修業年限2カ年の教員伝習校が松江殿町に設立されました。ところが、学制に基づく近代的な小学校が各地に次々と創設されたために、教員の不足をきたし、6～10カ月くらいで繰り上げ卒業をさせて教員に任用し、教育に当たらせることで急場を凌いでいました。

隣県の鳥取県ではすでに明治6年に中学校（鳥取中学、現在の鳥取県立鳥取西高等学校）が設立されていて、教員養成の役割も担っていました。この事実を知った松江教員伝習校予科教師桃好裕、河合篤敬、福岡世徳の3名は、明治8年5月、小学校卒業者に中等教育を施す場が必要のあること、不足する小学校教員の養成にも役立つものであることを主旨と

する「公立中学校設立の建議書」を県令井関盛良に提出したのであります。このことが母校誕生の端緒となったのであります。明治8年末に公立中学校は全国で10校程度（私立中学は東京府下を中心に105校）しかありませんでしたから、この建議書はたいへん先進的画期的なものであると言えます。

桃らの建議書を受けた島根県が文部省に「中学校設立伺」を出したのが明治9年2月22日、文部省が伺書通り教員伝習校に修業年限3カ年の変則中学科設置を許可したのが同年の4月28日でした。ところが、県は伺書を文部省に出したその日に早々と生徒募集の布達を出し、さらに3月15日付けで、3月18日から授業を開始する旨の布達（「仮に開業する」と表記していますが）を出し、認可前から実質的な授業を開始しました。そのくらい開校が待ち望まれていたということでしょう。このことから、母校の創設日は文部省の正式認可日の4月28日ではなく、授業を開始した明治9年3月18日としています。「変則中学校・科」という呼称は、〈学制〉第30章の「当今中学の書器未だ備わらず、この際在来の書によりて之を教うるもの、或は学業の順序を踏まずして洋語を教え、または医術を教えるものを通して変則中学校と称すべし」に依拠しています。松江の変則中学科の場合は、この章の前段に由来するものです。

明治4年7月、廃藩置県によって発足した松江県・広瀬県・母里県のそれぞれが同年11月には合併して出雲地区を総括する島根県となり、その島根県は、母校が創設された9年4月には石見地区を管轄していた浜田県を合併、さらに同年8月には隠岐・伯耆・因幡を管轄していた鳥取県も合併しました（合併5年後の明治14年9月には、再び出雲・石見・隠岐を管轄する島根県と、伯耆・因幡を管轄する鳥取県に分離されました）。このように島根県は、浜田・鳥取両を合併したことによって、教員養成機関は、松江教員伝習校、浜田教員伝習所、津和野伝習所、鳥取師範学校、鳥取師範学校米子支校の5校となりました。これらの名称や制度などを統一する必要から、すべて修業年限は2カ年間、名称は師範学校と定められました。その結果、松江教員伝習校は明治9年10月、松江師範学校と改称され、併設する変則中学科も松江師範学校変則中学科と改称されたのであります。翌明治10年11月には松江師範学校から独立し、松江中学となりました。

このように先見の明のある先人の努力によって、私たちの母校が全国に先駆けて産声を上げたということに思いを致すとき感慨深いものがあります。

参考文献 島根県歴史、島根県近代教育史、松江市誌、松江北高等学校百年史

# ご あ い さ つ

松江北高等学校長 佐藤 健治

近畿双松会会員の皆様方、平素は本校教育に御理解、御尽力いただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

今年、松江北高等学校は131年の歩みを着実に始めています。奇しくも、100周年、110周年、そして130周年と三度、周年期に勤務させていただきました。歴史と伝統に立脚した本校であります、生徒気質と申しますか、確かに30年前とは違っていることに思いを新たにしている所であります。しかし、当然のごとく不易の部分も数多くあります。

今夏、「悠久の地より吹く新しい風～島根2007～」をテーマとした第31回全国高等学校総合文化祭島根大会が松江市をはじめとする県内8市町で7月29日から8月2日まで開催され、全国から選抜された約18900人の高校生が島根に集いました。本校からは生徒実行委員会に2名、12部門に11の部活動と2つの同好会から137名の生徒が参加しました。本校の文化系の部活動は、全国1位に輝いた合唱部等の活躍もありますが体育系に比して、地味な存在でありました。だが、この数の部活動が全国総文祭に参加したのです。なかでも3年生の中村仁美さんは生徒実行委員会の委員長として、大活躍してくれました。「縁を大切にし、縁を繋げていくことを期待します。感謝とともに高校生のエネルギーが新しい風を吹かせることを確信しています」と述べています。「縁」——何と出雲らしい言葉でしょう。そして、現代に忘れかけられている大切な言葉。

また、この総合開会式の運営役員は本校の150名の生徒があたりました。北高生役員の爽やかな笑顔ときびきびした行動は、多くの関係者から「さすが北高」の賛辞をいただきました。

時を同じくして、佐賀県での全国総体。ボート競技女子シングルスカルで矢地紗代子さんが全国1位に。続く秋田での国体でわずか30センチの差での準優勝。快挙です。

先程私が不易と申しましたのは、北高生はいつの時代にも島根を、いや日本を担っていく人材として育っているということでもあります。これこそ伝統と言うべきものでありましょう。勿論、「文武両道」を校是とする本校は勉学の面でも立派な成果を収めております。

生徒諸君に、私は口癖のように話している言葉があります。

「凜として」

凜とした人間を育てたいと願っています。どうか皆様方の変わらぬ本校生への御支援を今後ともいただきますようお願い申しあげ、御挨拶とさせていただきます。



# ●●●●●● 平成18年度 近畿双松会総会 ●●●●●●

## 式 次 第

平成18年11月26日(日) 午後2時～

於 阪神百貨店11階 グリーンルーム

総司会 近畿双松会副会長 千葉 潮

### ◆ 1 部 総 会

- (1) 開式の辞
- (2) 校歌斉唱                      「赤山健児の歌」  
                                         「さんみゃくうかびて」
- (3) 物故者黙祷
- (4) 会長挨拶                      近畿双松会会長      山本 雅昭
- (5) 来賓紹介
- (6) 議長選任の議
- (7) 事務局報告                  近畿双松会事務局長 永江 幹夫
- (8) 会計報告                      近畿双松会副会長    内田 一三夫
- (9) 監査報告                      近畿双松会監事      小川 伸江
- (10) 閉式の辞

### ◆ 2 部 母校の近況報告 双松会会長 松本 幹彦

- (1) 「北高130周年記念行事のビデオ」
- (2) 母校近況報告 島根県立松江北高等学校 松嶋教頭先生

### ◆ 3 部 ビデオ上映

「新日本紀行・ふたたび『出雲面影水路～宍道湖から中海へ』」

(NHK制作)

### ◆ 4 部 懇 親 会 (15時40分) 司会 近畿双松会副会長 千葉 秀二

- (1) 開式の辞
- (2) 乾杯の音頭                      近畿双松会常任顧問 児玉 治利
- (3) 新入会員の紹介
- (4) 校歌斉唱                      「赤山健児の歌」「さんみゃくうかびて」全曲……全員
- (5) 中締め・万歳三唱              近畿双松会特別会員(恩師) 八木 幸治先生

以 上

## 総 会



山本近畿双松会会長



松本双松会会長



松嶋松江北高教頭

平成18年度近畿双松会総会・懇親会は平成18年11月26日（日）阪神百貨店11階グリーンルームで開催されました。

来賓として松江から双松会松本幹彦会長（松高1期）、母校より松嶋博教頭先生、渡邊克彦先生をお招きし、それぞれ双松会・母校の近況についてお話をいただきました。

総会では、今回新たに各期の代表として

役員をお引き受けいただいた会員の紹介がありました。

平成18年11月18日に松江で母校創立130周年記念総会が開催されましたが、その模様がビデオで放映され、盛大だった会の様子が伝えられました。

続いて例年の講演に代え、今回は「ふるさとに思いを馳せよう」という企画でNHKで放映された「新日本紀行・ふたた





永江近畿双松会副会長  
(事務局報告)



内田近畿双松会副会長  
(会計報告)



小川近畿双松会監事  
(監査報告)



松本近畿双松会副会長  
(組織拡大等報告)

び『出雲面影水路～宍道湖から中海へ』のビデオを視聴しました。皆懐かしいふるさとの風景や人々の営みに見入り、本場の出雲弁に笑いを誘われ、ふるさとへの思いを新たにしていたようです。

今回も昨年につき、今春近畿の大学に進学されたフレッシュマン7名（男子5名、女子2名）を特別ゲストとして招きました。

たくさんの先輩から激励を受け、当会の

存在を心強いものを感じてもらえたと思います。

今年は役員以外の若い方たちが積極的に受付などの運営に加わり、また懇親会でも若手のテーブルが大変賑わっていたように感じられました。出席者は来賓を含め94名でした。

## ビデオ上映



ビデオを見てお国なまりを懐かしみ、故郷に思いを馳せました。



懇親会





平成18年度近畿双松会総会・懇親会





平成18年度近畿双松会総会・懇親会







■カラー写真は、近畿双松会ホームページを  
ご覧ください  
<http://www.kinki-soushoukai.org/>



## ◆◆◆◆◆ 秋の行楽 初企画「文楽鑑賞会」 ◆◆◆◆◆

### 「心中天網島」

- 平成18年11月11日（土）・昼公演
- 国立文楽劇場〈大阪市〉にて



春季バス旅行（淡路島：人形浄瑠璃）は、残念ながら参加希望者が少なかったため、中止しました。人形遣いと浄瑠璃を発祥の地に訪ね、文楽の原点を探访する趣旨で企画したのですが、中止となり残念でした。

しかし、純粹に文楽を観劇するならやはり国立文楽劇場のほうがいいという意見があり、この度、秋の行楽「文楽鑑賞会」として実施いたしました。

雨天で足元の悪いなか、多数の方にご参

加（松江から3名）いただき感謝しています。

「心中天網島」は近松門左衛門が享保5年（1720）に発表したもので、近松世話物中の最高傑作といわれています。

開演に先立って、技芸員から解説会があり、人形の仕組みなど軽妙な説明に会場が沸いていました。

有意義なひと時をお過ごしいただけたものと世話人一同確信しています。



## ◆◆◆ 平成 19 年度ゴルフコンペ (第 27 回) ◆◆◆

客野伸氏 (松高 5 期) が 2 度目の優勝

参加 : 14 名



平成19年ゴルフコンペ (第27回) は5月21日武庫ノ台ゴルフコースで行われました。

参加者は14名で初参加者は米澤伸夫氏 (松高11期)、野津丞氏 (松高11期)、安達和彦氏 (北高3期)、松本耕司氏 (北高4期)、三吉孜氏 (北高4期) の5氏でした。

好天に恵まれ心地よい新緑のなか、熱戦が展開されましたが、松高5期の客野伸氏がグロス89、ハンディ15.1 (ダブルペリア) ネット73.9の成績で、平成13年5月以来となる2度目の優勝となりました。2位は米澤伸夫氏 (松高11期)、3位は山本雅昭氏 (松高7期) でした。



優勝の客野伸氏

来年は会発足50周年記念のコンペになります。各期のゴルフ愛好家の皆様、ぜひお誘い合わせの上参加してください。

■カラー写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください  
<http://www.kinki-soushoukai.org/>

# ◆◆◆◆◆ 平成19年度歴史ウォーキング ◆◆◆◆◆

## 山辺の道ウォーキング

- 平成19年10月14日(日)
  - 近畿双松会歴史ウォーキング 第2回行事
- 報告者 押田 良樹 (高11期)



### 当日の行程

午前9時：近鉄天理駅集合

天理駅——天理教本部前——小町・遍照  
歌碑——石上神宮——内山永久寺跡——  
夜都伎神社——竹之内・萱生環濠集落——  
西山塚古墳——大和神社お旅所(昼食)  
——長岳寺——トレイル青垣——JR柳  
本駅(桜井方面14:44、奈良方面15:  
09に乗車)

当日は24名の参加者がありました。また、松江から岩成哲男さん(高9期)が参加されました。

暑くもなく寒くもない快適な天気のもと、秋の大和路を楽しく歩きました。

今回の歩行距離は8kmでした。





■カラー写真は、近畿双松会ホームページを  
ご覧ください  
<http://www.kinki-soushoukai.org/>



## 追 悼

長年にわたり当会にご協力賜り誠にありがとうございました。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### 物故会員

| (期)  | (氏名)    | (ご逝去年月日)   |
|------|---------|------------|
| 中50期 | 西山 要 様  | 平成18年12月3日 |
| 中54期 | 渡部 博吉 様 | 平成19年9月22日 |

### ■ ■ ■ ■ 遺 族 便 り ■ ■ ■ ■

故・渡部博吉様のご遺族（ご令室様）より、次のメッセージをいただきました。

「平成14年の選抜高校野球出場の際には、皆様と一緒に甲子園まで母校の応援に出かけたことを、いつも楽しそうに話しておりました。

長年の御厚誼に感謝申し上げます。」



# 特集① 世界陸上 大阪大会

● 2007年8月25日～9月2日

長居陸上競技場にて

辰巳悦加選手(高51期)  
を応援しよう!!

～世界陸上・女子3000m障害で  
水濤での転倒にもめげず完走～

北4期(高16期) 松本耕司  
(写真提供) 高11期 押田良樹

## 定年と同時に世界陸上組織委員会へ

2年に一度の「世界陸上競技選手権大会」が、この夏、大阪・長居陸上競技場で開催されたことは、多くの皆さんのご記憶に新

しいところであろう。

私は、北高時代は陸上部のマネージャー、大学時代のS43年にはそれが嵩じて関西学生陸上競技連盟の幹事長をつとめるという経験をしている。言わば、「裏方さんの学生プロ」ということだった訳だが、この3月に某メーカーを定年退職したところをいろいろな因縁に絡めとられて、半年間だけ、世界陸上の運営を手伝うことになった。チケットの拡販や本番の長居でのVIP対応を担当してほしいというものであったが、昔、お世話になった陸上競技の世界大会が定年と同時に大阪でひらかれるとは、また、そ



左から8番目が辰巳選手



こにお呼びがかかるとは……、私も何か運命的なものを感じ、勇んで半年間汗をかくことにした。

### 35年後輩の辰巳選手の快挙、 世界陸上・日本代表に決定

その真面目な気持ちも、いささか中だるみをしかけ、また、国際大会の調整のむずかしさもひとしお感じるようになって、観客として楽しむだけの方がよかったかなと思ひ始めた6月末に、思いもかけなかった北高陸上部出身の後輩・辰巳<sup>よし</sup>悦加選手（北39＝高51期）が、女子3000m障害で日本代表に選ばれ、世界陸上に出場するというビッグニュースが飛び込んできた。

お会いしたこともない35年も後輩の選手であるが、私としては単なる偶然では片付けられないものを感じ、以降2カ月、辰巳選手を応援することも大きな目標となった。その結果、辰巳選手のことは勿論、郷里松江をキーとする多くの皆さんとの人間関係の再構築ができ、私としては極めて有意義な時間を過ごすことができた。

「世界陸上」は、私個人としては人生のひと区切りの意味があったが、辰巳選手には大きな彩りを添えていただいたということで、いくら感謝をしてもし足りないと思っている。そして、辰巳選手のことを一人でも多くの同窓の皆さんに知っていただければと思い、また、この間、お世話になった方々への感謝の念を込めてこの原稿を書かせていただくことにした。

それが起きたのは6月29日、辰巳選手の存在を知らなかった不勉強な私は、世界陸上の代表選手を決める日本選手権が長居でおこなわれているその同じ舞台裏で、世界陸上のある揉め事に巻き込まれていた。疲れ果てて帰宅したところに、後輩の木島（中村）光子（高17期）さんから、メールを受け取ったのが始まりであった。折角、長居にいながら私が見なかった「女子3000m障害」で、挑戦わずか3度目の辰巳選手が2位に入り、しかも世界陸上参加標準B（9分58秒00）をわずかに突破する9分57秒02の好タイムで、世界陸上の日本代表を決定的にする快挙をなしとげたというものである。

### 知らぬは私だけ……

驚いた私は日本陸連の競技運営委員長の要職にある吉儀宏（高14期）先輩に確認をとり、また、松江市陸協理事長の金山滉（高14期）先輩（陸上競技部OB会〈三柳会〉会長）にも確認を入れた。

金山先輩からは、たまたま世界陸上参加のアイランドが小泉八雲の関係で事前合宿地として松江市を選んだことから、世界陸上の開会式には松江市長以下バス2台で応援に行く予定だったが、女子3000m障害も初日におこなわれるので、辰巳選手の応援を追加検討しているとのことであった。

次いで同期の木村隆司（高16期）三柳会副会長からは、後述のような辰巳選手の事情から資金カンパをするので、近畿の三柳会員をまとめて欲しいとの依頼を受け

た。

また、かつて北高の陸上部監督であった玉野二三男氏（鳥取西高出身、現・松江東高勤務）からは、辰巳選手は自分の監督時代の教え子で、実は長居にも応援に来られ、快挙を目のあたりにして涙にくれた……という話も聞いた。

近畿双松会にも報告をと、副会長の押田良樹（高11期）先輩に連絡をしたところ、陸上部とは何の関係もない同氏ですら、都道府県女子駅伝で辰巳選手が島根のために活躍をしていることをすでにご承知で、現在、彼女が所属する「和光アスリートクラブ」のHPまで教えていただいた。

知らぬは、ホンの直前までバタバタとサラリーマン生活を送っていた私だけだったのである。

## 辰巳選手のプロフィール

ご承知の方には冗長になって申し訳ないが、私が確認した辰巳選手のプロフィールは下記のようなことであった。

辰巳選手は中学3年の時に松江一中に転入、そのまま北高に進学。北高時代は400m、800mで県大会に優勝しながら、惜しくも中国大会で入賞を逸して全国大会に出場できなかったという悲運を経験。島根大学では4年生の時に日本インカレという学生の檜舞台で7位入賞を果たしたが（これ自体もスゴイことだが）、残念ながら世間の注目を集めるところまでには至らなかった。

しかし、神様はどこかにいるもの、そのレースを見ていた実業団スターツの上野敬

裕監督に秘めた才能を見込まれ、将来の進路も変更して実業団選手として入社。以降3年、都道府県駅伝ではふるさと選手として島根に貢献しながら、着々と地力をつけてきていた。

転機が訪れたのはこの4月、思わぬ上野監督のスターツ退社という出来事があったが、本人は自分を見出してくれた上野監督の指導を引き続き受けたいとして、何人かのメンバーとともに迷わず退社。上野監督が設立した和光アスリートクラブ（埼玉県）に所属し、和光の森林公園を練習場に、監督の貯金や、失業保険で急場をしのぐという逆境の中での日々を過ごすことになる。

そして、上野監督も本人もおそらく勝負を賭けたのであろうが、3000m障害わずか3回目のレースでいきなり前述の快挙をなしとげ、一挙に「無職のランナー」、「ハローワークの星」などとマスコミにも取り上げられるようになったというものである。

## 自分が頑張ることで、皆さんに喜んでもらえれば……

ここまでの話はマラソンの野口みずき選手がそうであったように、この世界ではない話ではない。しかし、思わず激励のメールを打った私に返ってきた辰巳選手のメールは、至って謙虚で丁寧な人間性を感じさせる……「自分が頑張ることで皆さんに喜んでもらえればそれが一番嬉しい」という内容のもので、この人柄や心構えであれば、きっと多くの人に支持、応援されるに違いないということを直感させるものであった。

## 多くの方々からのあたたかい応援

それからの私は、自分が偶然にも関係した世界陸上（個人としては運命的なものも感じているが）に、後輩の辰巳選手が勝負を賭けて挑んできているという現実に対し、できるだけ応援をしてあげたいと思うのにほとんど時間はかからなかった。

すでに、それぞれの立場で立ち上がっておられた前述の方々とさらに密に連絡を取り、松江の三柳会を中心にした支援カンパや、長居での本番の観戦応援の準備をすすめたり、また、世界陸上がおこなわれる地元大阪の当近畿双松会のHPにも紹介をさせていただいた。近畿双松会の役員会で支

援カンパのご理解をいただいたことも誠に嬉しいことであった。

特に、特筆すべきは、多くの島根県人が集うお店「へそ」（南森町東南角、大阪天満宮近く・06-6356-5366）の女将、隠岐出身の若松靖子さんが、近畿双松会の村尾俊治（高11期）先輩のご助力もあって、北高とも陸上とも特に関係のない多くのお客さんに呼びかけていただいたということで、同県人の人情の有難さをしみじみと感じ、忘れられない有難い思い出となった。

## 長居に集まった50名強の応援団

結局、8月25日（大会初日）のAM10時40分からおこなわれた辰巳選手の出場す



緑のTシャツが同日夕方の開会式でアイルランドも応援する予定の松江からの方々

る女子3000m障害の応援のため、AM5時に松江をバス1台が出発し、近畿各地からの応援組とは水濠の上あたりで合流することになった。写真のとおり、併せて50名強の臨時応援団が辰巳選手に力強い応援を送り、久しぶりの出雲弁での邂逅のひとつも持たれることになったのである。

あるいは、もっと多くの方々が応援に来ていただいたのかもしれないが、私がお聞きしていたのは以下の方々である。特に近畿双松会の押田先輩には写真撮影で絶大なお協力をいただいたが、以下に皆様のお名前（敬称略）を記して心からの御礼を申し上げたい。

#### ◆三柳会・松江

佐藤方則（高3）、佐原亘（高9）、金山滉（高14）、福田磨寿穂（高16）、木村隆司（高16）、曾田和男（高16）、石橋万紀男（高16）、大野真理子（高21）、原洋介（高27）、玉野二三男（前・北高監督、現・松江東高）

#### ◆三柳会・近畿

寺本尚由（高5）、大島（三原）千恵子（高9）、米原（石川）津多恵（高11）、藤城（稲田）綾子（高12）、二階堂（糸賀）孝子（高15）、木島（中村）光子（高17）、宮本（永田）由美子（高17）、江角健一（高19）、

#### ◆近畿双松会

押田良樹（高11）、村尾俊治（高11）

#### ◆島根県人

村上勝美ご夫妻（松江工業卒、現・関西大学陸上部コーチ）

### 辰巳選手のレース結果……水濠で二度の転倒にもめげず必死の完走

辰巳選手のレースは、朝から34度という猛暑の中で行われた予選3組で、何と応援の皆が見守る目の前の水濠で2度転倒するという残念な結果になった。スタートでは中盤の好位置をとったものの……、最初



スタート：左から6番目

の水濤での日本では見られない押し合いへし合いの格闘技状況の中で、障害で足がすべったところを水濤の外まではじき飛ばさ

れて横転するという厳しい国際競技の洗礼を浴びてしまったのである。



スタート直後、17人中10番目の好位置をキープ



1回目の水濤直前：左から3番目



一気に後ろから3番目に後退

この後、辰巳選手は2周目の水濤も着地に失敗して転倒、右足首を捻挫してついに最下位に落ちるという厳しい前半となった。私もこのレースだけはとメーンの跳躍助走路の付近で応援していたが、日本陸連の幹部が「将来を考えて棄権をさすべきではないか」とあわただしい動きを始め、しかし、再び走り始めた姿を見て、その動きを止めたのを目のあたりにしていた。

そして、それからの辰巳選手のあと2000mの走りこそ誠に見事であった。捻挫でバランスを崩しながらも必死に何周もかけて前の選手を追い上げる辰巳選手の姿に2万1千人の観衆から惜しみない大声援も起こった。ほとんど追いついて、何とか最下位から脱出しようと、最後のハードルを越えて顎を引いてラストスパートをかけた辰巳選手の姿は今も忘れることができない。

本人も、「棄権」という文字が頭をよぎったが、大声援を耳にして最後まで必死に走ろうと覚悟したと、後からブログで述べているが、あの大声援を辰巳選手は一生忘れることはないだろう。私も負けて残念なのに、何かしら爽やかな……、そしてあの状況下で完走した辰巳選手を後輩に持つことを誇りに思う気持ちさえ抱いた。おそらく、応援に来ていただいた方々も同じ思いであったことだろう。松江から応援に来ていた辰巳選手の恩師の玉野先生は「ビデオをまわしながら、健気な姿に、涙で手が震えた」と述懐しておられるが、さもありなんと思う。

## 辰巳選手に教えられたこと

かくして、辰巳選手の6月29日からの2カ月の世界陸上体験は、自己記録を35秒も下回る10分32秒67の悔しい結果とともに終わった。しかし、この経験が辰巳選手の貴重な財産になったことはもちろん、私はそれを見ていた多くの人々のそれぞれに忘れていた何かを思い出させてくれたと思っている。私の場合は「爽やかに生きること」と、「感動することの大切さ」であるが……。

そして、辰巳選手の生き方や世界陸上で見せた頑張りは、卒業後7年の努力を経ての快挙であるだけに、北高の後輩や島根の高校生たちにも大きな励みになり、人材育成や成長の過程における多くの好影響を与えたに違いない。このことを心の底からうれしく思うのである。

## 北京をめざして新たなスタート

辰巳選手の世界陸上での捻挫は深刻な事態にはならず、回復は順調だと聞いている。転倒の原因は誰しもが感ずるとおり、国際的なレース経験が一度もなかった経験の浅さに尽きるが、本人はこの強烈な経験を生かし、このひと冬でさらに地力をつけ、強くなって帰ってくると力強くブログで語っている。

その目線の先にあるのは、ただ一つ、来夏の北京オリンピック出場であろうが、その道も平坦なものであるはずがない。しかし、辰巳選手の今の強い思い、真摯な姿勢

がある限り、十分に実現可能な目標であり、ぜひ、日本の第一人者になって大きな花を咲かせて欲しいと心から願っている。

## 辰巳選手を応援しよう

実は、私はまだ直接、辰巳選手に会ったことはない。しかし、これだけ多くの皆さんに感動を与えている辰巳選手、そして、長居での10分間の死闘をつぶさに見た私は、自分の直感も加え、素直で謙虚で芯が強い、誰もが応援したくなるような長所を持っている選手であると確信している。

そして、辰巳選手の今日があることには、郷土の風土や北高の伝統も少なからず関係しているのではないかとも思いたいが、この辰巳選手の存在をどうしてもたくさんの同窓の皆さんに知っていただき、応援していただきたいと考え、あえて拙文を投稿させていただきました。

立ち入りすぎて辰巳選手にもご迷惑をかけているかもしれないが、意のあるところをお汲み取りいただければ幸いである。

## 〈追記〉

原稿を書き終えた後の9月25日、辰巳選手は上野監督とともに神戸に本拠をおく(株)ノーリツに入社して北京をめざしていくことが公表された。

辰巳選手にとっても、ちょうど半年間の「無職のランナー」期間であったが、この間に怒涛のような人生経験をしたことになる。そして、競技者にとってのより良い環

境を自力で勝ち得たことになるが、この結果も日頃の精進の賜物であり、ご本人のために心から喜び、再出発先での活躍を祈りたい。

と、同時に、名実ともに近畿双松会の一員となられる訳で、不思議な縁のようなものも感ずるが、皆様には今後とも辰巳選手への応援をよろしくお願いしたいと思っている。

■カラー写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>



# 特集② ふるさと紀行

## 双松会会員 7 クルーが力漕!!

高11期 押田良樹

第24回松江市民レガッタは7月28、29日の両日、大橋川で行われました。全部で290余のクルーが参加し熱戦が展開されましたが、シニアの部には出場14クルーのうち松江高校、松江北高校の同窓生クルーが7クルー参加し、日頃の練習の成果を競いました。各クルーとも力漕しましたが、ボート部OB2クルーが決勝に進出、60歳

台メンバー中心の松江艇友会Cが2位、70歳台古希クルーの松江艇友会白雲が6位入賞と健闘しました。シニアの部の成績は下記の通りです。

ボート部OBクルーの決勝進出はさすがですが、ボートの経験と言えば高校時代クラス対抗でオールを握った程度の（または嫁が島あたりまで彼女を乗せて漕いだ程度の？）あるいはシニアになって初めてオールを握ったというメンバーがほとんどの各クルーの健闘は実に見事なものです。

市民レガッタを目指して、ユニホームを揃え寒風酷暑ものかは、月2回くらいの練習（その後の反省会名目の宴会）に励み青春を継続している友に、同期の皆さんぜ

### 第24回松江市民レガッタ 平成19年7月28日・29日

#### ■シニアの部 予選1組

|   |              |         |        |             |
|---|--------------|---------|--------|-------------|
| 1 | 松江スベロー会マスターズ | 2分00秒92 | 決勝へ    |             |
| 2 | 松江艇友会 白雲     | 2分01秒36 | 敗者復活戦へ | ボート部OB 70歳台 |
| 3 | 松高士・椿        | 2分07秒49 | 敗者復活戦へ | 松高11期       |
| 4 | 松高七期同窓会      | 2分09秒74 | 敗者復活戦へ | 松高7期        |
| 5 | 松高二期「赤山」     | 2分36秒35 | 敗者復活戦へ | 松高2期        |

#### ■シニアの部 予選2組

|   |                  |         |        |       |
|---|------------------|---------|--------|-------|
| 1 | 名古屋大学艇友会関西       | 1分46秒49 | 決勝へ    |       |
| 2 | 山陰中央新報ボート同好会125A | 1分58秒73 | 敗者復活戦へ |       |
| 3 | 松江スベロー会シニアレーシング  | 2分01秒65 | 敗者復活戦へ |       |
| 4 | 松江ジョギングクラブC      | 2分09秒51 | 敗者復活戦へ |       |
| 5 | 松高士「桜」           | 2分18秒13 | 敗者復活戦へ | 松高11期 |

ひ声援を送ってください。

シニアの部優勝は名古屋大学ボート部  
OBクルーで3連覇となりました。来年は  
この強豪クルーを破って同窓クルーが優勝  
に輝くことを期待しております。

■カラー写真と成績の詳細は、近畿双松会ホ  
ームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>



決勝レースで力漕する松江艇友会Cクルー〈手前〉

#### ■シニアの部 予選 3 組

|   |             |             |        |              |
|---|-------------|-------------|--------|--------------|
| 1 | 松江艇友会C      | 1 分 51 秒 34 | 決勝へ    | ボート部OB 60 歳台 |
| 2 | 松高二期「双松」    | 2 分 03 秒 84 | 敗者復活戦へ | 松高 2 期       |
| 3 | ジージーズ       | 2 分 18 秒 50 | 敗者復活戦へ |              |
| 4 | 松江ジョギングクラブB | 2 分 34 秒 99 | 敗者復活戦へ |              |

#### ■シニアの部 決勝

|   |                   |             |  |              |
|---|-------------------|-------------|--|--------------|
| 1 | 名古屋大学艇友会関西        | 2 分 01 秒 31 |  |              |
| 2 | 松江艇友会C            | 2 分 03 秒 08 |  | ボート部OB 60 歳台 |
| 3 | 山陰中央新報ボート同好会 125A | 2 分 18 秒 24 |  |              |
| 4 | 松江スベロー会シニアレーシング   | 2 分 19 秒 88 |  |              |
| 5 | 松江スベロー会マスターズ      | 2 分 21 秒 42 |  |              |
| 6 | 松江艇友会 白雲          | 2 分 32 秒 00 |  | ボート部OB 70 歳台 |

## ふるさと紀行

(松高10期) 佐和田丸

5月中旬、高速バス「くにびき号」で、ふるさと・島根へでかけた。島根へも高速道路が延び、便利になった。時折、録音休憩もあり、ローカル色豊かなSAを覗いたり、バス旅行も結構楽しい。東西に長い島根では、山陰道の早期全通が望まれる。11年間の、住民・研究者、関係当局の尽力が実って、この7月、めでたく県央の石見銀山遺跡が世界遺産に逆転登録された。まさしく、輝きふたたび石見銀山といったところ。これを核・起爆剤にした、広域観光振興ルートの構築が待望される。中国地方では、世界遺産は原爆ドーム、厳島神社と3つだけだそうで、県内はもとより、中国観光全体への波及効果が期待される。

松江へは、老人ホームに入所している実母を見舞い、入所者の家族会総会へ出席するためである。お袋は、明治40年生まれ、まるで、子どもを生む機械のように8人の子を生んで、大正・昭和そして平成と生き抜いている。普段は、松江で司法書士・土地家屋調査士をしている、兄がでてくれるのだが、所用のため、かわりに私が出席した。

出席者は、入所者50人の約3分の1であった。家族でホームが円滑に運営できるよう家族もできるだけの協力をしようというのが、主な議題である。職員の定着率が悪いという意見もあった。介護施設職員の待

遇が悪く、全国的なものであることは、テレビ・新聞等で報じられているとおりである。せっかく熱い志をもって介護業界へとびこんでも、他業界へ鞍替えをするひとも多いらしい。報酬・職場環境の改善なくしては解決できない問題と思われる。東南アジアから、安く雇える人材をうけいれる話も進んでいるようだ。私の老後の介護は外国人にやってもらう時代がくるかもしれない。ふと長生きするリスクが脳裏をよぎる。ほどほどのところで、お迎えに来てもらい、ピンピンコロリでこの世にいとまごいできれば、社保庁からも感謝されるしよいかなとも思ったりするが、こればかりは運命でいかんともしようがない。願わくば、介護保険料も掛け捨てにして、ある日突然に終わりたい。

後日談になるが、母は、8月の満100歳を目前にして、7月やすらかに天寿を全うした。今年が定命の年ならば、せめてあとひと月半生きながらえてほしかったとの、心残り、思いがある。合掌。

松江では、時間があつたので堀川遊覧船に乗った。松江観光大使の名刺を呈示したら、1,200円のところ1,000円に割引していただいた。わずかだが、嬉しいことである。川面から見る市街は、また違った風情、情緒、趣がある。50分程度だから、ぜひ一度乗られることをお勧めしたい。

松江しんじ湖温泉から、一畑電車で大社へ向かう。今日の宍道湖は晴れと信じ込んでいたが、予想通り晴れ、湖面はのどかで静かである。川跡でのりかえて出雲大社前

駅に着く。出雲大社へ参拝する。久しぶりである。賽銭を投げ入れ、二礼、四拍手、一礼して、家族の福寿康寧と、「熟年離婚がありませんように、家内より先に死ぬますように」と祈る。賽銭は、5円（ご縁）45円（始終ご縁）1,125円（いい人にご縁がありますように）その他いろいろあるようである。また、普通、神社は、二礼、二拍手、一礼であるが、出雲大社では、全国の八幡総本宮である、大分県・宇佐神宮と同じく、もともと二礼、四拍手、一礼である。四拍手を幸せと、こじつけ、語呂合わせして吹聴、喧伝しているのは、カラスの勝手、いや、どなたかの勝手に、出雲大社とは無関係のようである。なお、付言すれば、出雲大社の礼大祭では、四礼、八拍手、一礼で行われるとのことである。

神楽殿のしめなわは日本一、ということは、世界一ということでもある。これは、飯南町頓原の勘農講社が奉納されたものである。このしめなわは、水田約1.3ヘクタール分の稲に相当する約5トンの稲わらを使用した長さ13メートル胴回り9メートルという大きなもので、延べ約200人の人手をかけてつくられたもの。平成6年7月20日には、作成の様子が、NHKテレビの「おはよう日本」の中で、全国へ生中継で紹介された。このしめなわに、郷里の方々が深くかかわっていることは、たいそう名誉なことである。

出雲大社は、平成25年“平成の大遷宮”が行われる。

参拝後は、最近東隣りにできた、県立古代出雲歴史博物館を見学した。島根の特色

ある歴史・文化を紹介する立派な施設である。鎌倉時代初期の出雲大社本殿を支えた三本束ねの巨大柱の宇豆柱には、しばし見入った。タイムスリップした思いである。日本最多出土の荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡の青銅器群（国宝）は、何度みても、感動、印象的である。学芸員の話では、もとの遺跡の資料館には、レプリカが展示してあるとのこと。その他、出雲大社高層模型、出雲神話の世界を体感できる「神話回廊」、庭園、テラス、レストランなど、十分、学びそして楽しむところとなっている。出雲大社と相乗効果であのあたりは、今後たくさんの方を集めることであろう。大社、島根はよい集客施設を持ったなと思いながら同館をあとにしたことであつた。

出雲市から広島行き的高速バスに乗る。1時間余にある飯南・頓原の墓参のためである。国道54号線は、あちこちで改良工事が行われ、通るたびに道路がよくなっている感じである。しかし、いまほぼ平行して、松江・尾道間的高速道路建設が進んでおり、約10年後には裏通りになりそうである。ルートが外れる郷里・飯南は、ますます寂れるのではないかと、地元では、いま不安を感じているひとが少なくない。

夕方、今夜泊まる「南天」に旅装をとき、タオルをもって、近くの頓原温泉リフレッシュセンターへいく。ちょうど、城崎温泉の外湯に行く気分である。

これまで、頓原温泉琴引荘として愛されてきたが、建物も老朽化したため、平成19年4月1日改築して、新しく頓原温泉リフレッシュセンターとしてオープンした。

今から約120年前の明治20年頃、塩ヶ口温泉という湯治場があった。連日芸者さんによる弦歌も聞こえるほど、大変な繁盛ぶりだったという。この温泉は、この湯を当時のまま引き継ぐ。

泉質は、含炭酸食塩重曹放射能泉の源泉かけ流しで、黄金・カーキ色をしている。日本有数の「炭酸泉」で別名ラムネ温泉ともいう。疲労回復、胃腸病、心臓病等に効く。また、同時に「放射能泉」でもあり、リュウマチ・神経痛等の改善にも効果があるとされる。摂氏38度から40度の湯温は、長い時間をかけての入浴に適している。入浴後は温泉効果により、汗が出るほど熱くなる。大きな着替え箱もあり、道中いつ行ってもはいれる。飯南・頓原に行かれたら、ぜひ立ち寄って、入浴されることをPRしておきたい。頓原バス停から徒歩10分。車なら駐車場もあり便利である。

場所は、飯南町頓原の街中にある。（営業時間は午前10時から午後8時。入浴料300円。小・中学生半額、幼児無料。電話0854-72-9373）

なお、建物には、「小規模多機能型居宅介護施設あゆみの杜<sup>もり</sup>」が同居している。同じ温泉を使用しているが、玄関、風呂は別々である。

入浴後、夕暮れの道を、「南天」へ帰る。飯南町役場頓原庁舎向かいだからわかりやすい。

地元産の山菜をふんだんに使った、たくさん美味しいご馳走、地酒にほろ酔いながら、代表の加瀬部さんと談笑しながら夕食をとる。周りに未婚の男女が多いのが悩

みとのこと。良縁を求めておられる男女があればご紹介ください。お願いします。

縁側喫茶・南天は、2年前、代表が有志とともに、地元のひとが気楽に立ち寄り、お茶を飲んだり、食事をしたりできる場所として開いたもので、今では、地域のひとびとのたいそうよい憩いの場所となっているとのことである。

しまね田舎ツーリズムの都市・田舎交流認定の場所として、民泊ともなっている。民泊は聴きなれない言葉だが、民宿より許可基準が甘く開きやすい、農家等に泊まり田舎暮らしをする体験宿泊施設であるとのこと。宿泊料金も一泊二食5,200円と安いのも嬉しい。

ここも、しまね定住財団から補助金をうけ宿泊できるよう改築したとのことだ。わたしが泊まったのは土曜日でひとり、貸切状態であった。平日は、近くで志津見ダム工事などが進んでおり、その宿泊所として満室とのことであった。昔は、ダム工事といえば、飯場がつきもので工事関係者はそこで生活したものだが、今は様変わり。近くの旅館、民宿、民泊などを利用しているようである。

松江市民を水害から守るということで、いわゆる“平成のおろち退治”の諸事業が、今あちこちで進行中である。大橋川の拡幅、斐伊川の水を宍道湖に入れず、神戸川に流し、そのまま大社沖の日本海へ流す。雲南・尾原と、飯南・志津見にダムをつくらせて大雨のときは一時そこに貯める。志津見ダム工事はその一環なのである。飯南町周辺の宿泊施設は、今、ダム景気の恩恵を受けているといえなくもない。ダム近辺には、

補償金で建てた“ダム御殿”が並ぶ。しかし、ダム完成後はどうなるか、いささか不安になるところである。

閑話休題。飯南三山といわれる、県民の森・大万木山（<sup>おおよろぎさん</sup>頓原から町営バス10分の三田橋が登山口）、出雲富士・琴引山（頓原から町営バス5分の佐見下車、徒歩15分の琴引キャンプ場が登山口）、国立公園・三瓶山（頓原から町営バス33分の城平下車、ここからタクシーで三瓶山各地へ5～15分である。三瓶観光タクシー電話0854-83-2238。人数が多ければ、頓原からニコニコタクシー電話0854-72-0003を利用するとよい。ジャンボタクシーもある。頓原・三瓶約40分）。いずれも近く、その探勝基地として、ここは重宝である。大万木山は、登山・ハイキング道路が完備し、ブナ原生林が魅力。運がよければ、ツキノワグマとの逢引も楽しめるかもしれない。三瓶山は、佐比女（境）山、すなわち出雲と石見との境の山の意。子三瓶が雲石の境界となっている。一般には、石見富士といわれるが、どちらかといえば、島根富士というのが正しいのではないか、これは私の個人的見解である。島根富士に“格上げ”して、大田市・飯南両市町協力して、PRしていくことが望まれる。それはさておき、登山・ハイキングの疲れは頓原温泉で癒せばよい。また、頓原のエルシードライブインは、大万木・琴引両山の、絶好の好望地となっている。ドライブの途中、車をとめて美しい山容を楽しみたい。冬はスキーが楽しめ、四季を通じて嬉しい。余談になるが、飯南は隠岐を含めた中国地方のど真ん中にある

楽園である。飯南へ来られれば、きっと飯南はいいなァと実感されるにちがいない。PRかたがたお勧めしておきます。

縁側喫茶「南天」（電話0854-72-0908）  
——飯南町頓原 喫茶・食事・宿泊も可能で予約されるとよい。

ほかに、やまなみ（電話0854-72-1111）、琴引山荘（光明石温泉、電話0854-72-1035）でも泊まれる。

近くには、西は山口県から東は兵庫県まで、中国山地の雪具が見られる飯南町民俗資料館がある。国の重要民俗資料となっており、一見の価値がある。

また、由来八幡宮は出雲八社八幡の第四社。境内には、樹齢1000年の千年杉がある。参拝後は、ぜひ手にふれて、その生命力にあやかりたい。

翌日朝食後、早速、墓参りした。生え伸びた笹草を刈り、草を抜き、線香をたく。墓ではしばらく休んで、亡き親兄弟とともに至福の一時を過ごしたことであった。

そのあと、帰阪はちがうルートでと思い、三次まわりで帰宅した。中国山地を縫うように走る楽しいドライブである。信州の峨々たる山並みと違い、老齢期の山といわれ、いつ果てるとなく続く、中国山脈のなだらかなやさしい山容は、この駆け足の旅の疲れをいやしてくれるのだった。

# 会員の寄稿

## 私の語りつぐ戦争

(旧59期) 山本 洋

本年の4月頃からここ数カ月の間、かつての国を挙げての戦いに関する記事が連日のように新聞の紙面をにぎわしている。それは例年、繰り返されているといえば、それまでのことである。

それはともかくとして、去る8月1日付〈朝日新聞・天声人語〉に次の記事を見かけた。

「戦争体験者の高齢化が進み、国民4人のうち3人までが戦後生まれを占める時代である。戦争をめぐる記憶の泉からわずかに残る水をくみ上げて“記録”に留める。枯れるまえに一滴でも多くを」と。

大正10年(1921)生まれの私自身(本年12月15日をもって86歳となる)も太平洋戦争の後期に2年余りの間、学徒出陣として軍役に服した体験を持っている。当時、21歳だった私は体格・性格ともに軍人として適任ではないと思っていたので、就学途中で兵役に服すべしと決まったときは

「大変なことになったなあ」との思いを禁じ得なかった。

しかし学友たちのすべてがそうした運命を甘受する以上、やむを得ないことと諦めるほかはなかった。

さて、私の軍歴は次の通りである。

○昭和18年(1943)12月1日～翌19年4月末日

西部第三部隊(島根県・浜田市)に入営し、5カ月間初年兵教育を受ける。

○昭和19年(1944)5月1日

甲種幹部候補生として久留米第一陸軍予備士官学校に入校。

○昭和19年(1944)9月15日

教育途中で南方軍幹部候補生隊への転属が決定し、同期生約800人が佐世保港を出航し、南方に向かう。

出航時の船団編成は、輸送船13隻が縦3列に並び、その両側を駆逐艦1隻と海防艦6隻が警護するという大がかりなものであった。13隻の輸送船で運ばれた兵員は、おそらく15,000人余り(1隻あたり平均1,200人程度)であつたろう。久留米予備仕官の我々と豊橋予備仕官の同期生(約500人程度)のほかは、中国の戦線から南方軍への転属を命ぜられた部隊であつたらしい。

さて、船団が台湾の南、バシー海峡へさしかかったとき、突如としてアメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受けた。佐世保港を出航後2週間余り経った10月2日の夕刻のことである。我々の乗船（長山丸）の前方約200メートルのあたりを航行中であった僚船の津山丸に魚雷が命中し、船体が中央から二つに裂かれて瞬く間に沈没してしまった。船内は大騒ぎとなり、我々の乗船は次々と発射される魚雷攻撃を避けながら右往左往するほかはなかった。

まもなく魚雷攻撃は収まり、アメリカ潜水艦はどこともなく消えてしまった。沈没した津山丸から投げ出され、暮れなずむ波間に漂う遭難の兵士たちを海防艦が救助に走りまわっているのを眺めつつ、我々は“やれやれ助かった”との思いを禁じ得なかった。結果的には船団13隻のうち沈没したのは津山丸1隻のみであった。

——今にして思えば“マムシがうようよと這い回る山路をはだして歩くようなもの”とでも言うべきか—

ところで船団はバラバラになり、我々の乗船・長山丸1隻のみがフィリピン群島の西岸沿いに南に進んだ。もし再び魚雷にやられても泳いで向こうの岸に着けるから、まずは安心だとの船長の判断によるものであった（当時フィリピンは日本軍の占領下にあり、軍司令官・山下奉文大将の指揮下にあったわけである）。

我々の乗船はフィリピンの首都マニラに停泊すること約2週間、その後、海防艦の護衛もないままに1隻のみで南シナ海を南下した。

○昭和19年（1944）12月15日

最終目的地の南方軍幹部候補生隊（インドネシア・スマラン市）に無事到着。

佐世保を出航後、3カ月経っていた。

ところで私自身、軍役に服していた間に敵と銃火を交えたことは一度もなかったので、バシー海峡で乗船が沈没していたら、さしずめ「英霊」という名の靖国神社行きとなっていただろう。今にして思えば誠に lucky であったというほかはない。

○昭和20年（1945）4月末日

4カ月半の南方軍幹部候補隊の教育課程を修了。

同期生はそれぞれ東南アジア各地に駐屯する部隊に配属され、私はシンガポールに駐屯する部隊への配属が命ぜられて、5月上旬に着任した。

そして、昭和20年（1945）8月 終戦。同年12月25日、故国に帰還。私が24歳のときのことである。

さて、戦いに敗れた後、英軍の管理下に置かれた私の体験は双松会会報誌面の制約もあろうから、ここには記さない。

よって会報の次号（明年の発刊）に続編として述べたいと思っている。しかし私自身の年齢からして1年後に続編を投稿し得るか否かは分からない。それはともかくとして、私の軍歴の最後の体験を記録に留めたいとの思いを捨て切れないのである。

いささか尻切れトンボのような形となってしまったが、以上をもって拙稿を終えることとする。



## 松江一高物語 …誕生とその前後…

(松高2期) 千葉新一

家業が報道に関係していたことから日本の敗戦はその前夜に知った。翌日の午前中も松江市の殿町あたりでは強制建物疎開の取り壊し作業が続けられていた。

昭和20年8月15日正午の玉音放送によって、終戦が告げられた——松江中学の様相も一変する。それまでの老先生方によって続々と復員された先生方と、予科練等軍学校からの復学の生徒で活況を呈していた。

その年の秋頃だったか二本松壇上での脇田校長の話を今でも思いだす。太平洋戦争末期にインドネシア方面軍の司令官だった松江中学の先輩、岡崎清三郎中將が独立運動の支援をされている——と思いを込めて話されていた。同窓会名簿「双松」をめくると明治44年松中31期、陸軍士官学校を卒業されているので辻褄が合う。脇田校長は白人国家オランダからアジア人による独立戦争と岡崎中將のスタンスにエールを送られていたのであろう。

昭和22年4月学校教育法の施行で学制が変わり、翌23年4月松江第一高等学校が発足する。松江中学校併設中学3年生だった私は、松江一高1年に編入された。クラス担任は元双松会長の兼折博先生であった。

この松江一高は、わずか1年後に松江第

二高等学校(旧県女)、松江市立高等学校(旧市女)と統合され、松江高校としてスタートする。今や松江一高の存在を知る人は少なく、戦後の学制移行期にこの学校のあったことを記憶しておきたいものである。

終戦後ほどなく音楽、演劇活動が盛んとなり松江文化研究会が設立されている。当時、たまたま松江に在住されていた声楽家(テノール)の阿部幸次さんの指導もあって松江音楽協会が設立され、中央からの音楽家の来演も多かった。私が松江市公会堂で本格的な交響楽を聴いたのもこのころであった。朝比奈隆指揮する関西交響楽団(昭和22年創立)が演奏するビゼーのカルメン、なかでも前奏曲のドラマチックな旋律に感動した。

朝比奈さんが島根県出身の楽団員を起立させて紹介されていた。ホルン奏者であった。

学生音楽連盟も結成され、よく演奏会が催されていたが、豊増昇のピアノコンサートを松江中学の講堂で聴けたのも、当時在任されていた八木幸治先生のプロデュースであったことを後年になって知った。昭和21年のことであった。

圧巻だったのは昭和24年秋、市公会堂で催された校内の音楽祭だった。新宅、高橋先生のヴァイオリンを加えた弦楽合奏によるヴィヴァルディの「四季」、そして混声大合唱団によるシュトラウスの「美しき青きドナウ」(杉尾先生指揮)は今なお耳に残る。校内のミニコンサートでベートーヴェンの「ロマンス・ヘ長調」を弾いていた佐野さん、マンドリンの津田さんなどの

音色は美しく楽しかった。演劇部が上演したメーテルリンクの「青い鳥」も大評判となり、我々を熱狂させてくれた。

昭和23年5月の学校炎上は痛恨の出来事であった。発足したばかりの松江一高は校舎のほとんどを消失し、さらにその年の11月にも再建したばかりの5教室を再び火災で失うという悲劇に遭遇している。私たち1年生は青空教室で、2年生は旧制松江高で、3年生は松操高女で授業が行われていた。秋頃からは1年生も旧制松江高へ通って、午後からの授業を受けていた。失火の責任問題を巡って県教育委員会と学校とのやりとり、復興期成同盟会による募金活動などについては藤原治先生著『ある高校教師の戦後史』（岩波新書・昭和50年）に詳記されている。

このころの運動部はなかなか好調で、野球部は県内で浜田高校と実力伯仲の好勝負を展開していたし、陸上競技も短距離の金野君ほか好選手を擁していた。またバレーボールは横浜国体でベスト8まで進出、そしてバスケットボール、テニス、ボート等

も全国レベルで活躍していた。

統合3年目の昭和26年10月、松江高校北校舎の生徒は赤山を離れ西川津の南校舎へ移り、変形だった南北校舎の統合が実現した。松高2期生以降は西川津校舎から巣立っていくことになる。

その後昭和53年には松江北高は新校舎が竣工して赤山に回帰した。そして5月には創立百周年及び校舎竣工記念式典が2日間にわたって催されたと、その年の近畿双松会報に記載されている。

愛唱する「赤山健児の歌」第1節にある「正気を<sup>の</sup>舒ぶる壺百年」を、私が松江中学1年生だった昭和20年には「七十年」と歌っていた。今や130年の歴史を重ねる文武両道の名門校として母校がますますの飛躍を続けてほしい。二本松は枯れて姿を消したが、赤山台上の「二代目二本松」は十数メートルの高さにまで成育しているようだ。二本松が母校のシンボルとして再び大樹とならんことを見守り続けたいと思う。



## げに、「ボランティア」こそ

～世界陸上大阪大会を体験して～

(北高2期) 松本耕司

### ■世界陸上で長居のプロトコール（VIP 接遇）を担当

2年に一回の「世界陸上競技選手権」が、この夏（8/25～9/2）、大阪・長居陸上競技場で開催され、私は学生時代からの陸上競技との縁や、会社の仕事で大阪市とも縁があったことから、3月定年後、直ちに4月から組織委員会に入り、本番ではプロトコールを担当することになった。

予想もしなかった北高後輩・辰巳悦加選手（高51）が女子3,000m障害で日本代表として出場するなどの驚くような出来事もあった（P.22～参照）が、知友人、そして新しい出会いなど、多くの方々に支えられて何とか大過なく終点まで辿り着けたことを心から御礼を申し上げたいと思っている。

プロトコールとは「VIP接遇」の総称で、私の担当は国内外のVIP約2,000人を閑空で迎え、閑空で見送るまでをお世話するという全体の流れの中で、長居における9日間を気持ちよくお過ごしいただくことであった。

競技は午前と夜の二部制、一回の休みがあって9日間17回、VIPを正面玄関で出迎え、貴賓室・VIP席へ案内し、終了後お見



戦いすんで……長居のメインスタンドをバックに

送りをするという仕事と、ラウンジでの喫茶・食事の提供や、メインスタンドのVIP席を見回るというもので、各持ち場を一日何度も往復しながらの肉体労働であったが、ひたすら走り回っている内に、何とか9日間が過ぎていったというのが実感である。

### ■多くのボランティアの皆さんの「志」に感激と敬意

その中で、今も強く印象に残っているのは酷暑の中で頑張られた「ボランティア」の皆さんのことで、本当に多くのことを学ばせていただいた。

全国各県から応募された方々は延べ6,000人を超えたが、酷暑の中で4日間以上の勤務、支給されるのは弁当だけ、交通費も宿泊費も自己負担の条件であっただけに大変な数の応募者であった。また、仕事内容も、事務、通訳、VIPやマスコミ対応、競技運営から、輸送・運転、駐車場管理などの多岐にわたる業務で、朝番は朝早くから、夜番は夜遅くまでの厳しいものであっただけに、主婦、OL、学生などの女性の

方が圧倒的に多いことにも驚かされた。

6,000人であっても個別に勤務日をあてはめれば、当然ウィークデーは人数不足が発生し、最後は大阪市職員から補充を募るということにもなったが、厳しい条件の中で裏方として大会運営を支えたいという「志」のある方が、これだけ多数いらっしゃることに本当に感激した次第である。

### ■ボランティアの皆さんと同志となって

こういう大会のボランティアはユニフォームをもらった瞬間にドロロンする人が多いと言われる中で、実は、私は今までの経験からこの大会の成功や、大阪のホスピタリティイメージの向上は、ボランティアの皆さんにかかっていると信じていたので、最初の説明会からその思いを真剣な気持ちで訴え、お願いをした。民間経験の長い私ができることはボランティアの皆さんの理解者、味方になることだけぐらいの気持ちで一貫して接したつもりだが、逃げ出す人もなく、最後までチームワークを保って協力しあうことができたことは本当に嬉しい結果であった。

本番で私の部署と一緒に汗をかいた方々は延べ100人ほどであった。座席に関するVIPからのクレームや、VIP席の前方に、よりグラウンドに近い高額販売シート席があったことから起きた様々なトラブルや、VIP用飲食ラウンジに入り込む巧妙な侵入者などなど……、時には毅然と、時にはひたすら頭をさげての日々には頭の下がる思いであった。私の耳に入ったトラブルはホンの氷山の一角で、最前線のボランティア

の方々のご苦勞は並大抵なことではなかったはずである。

### ■学生警備員にも尊敬されて

また、「ボランティア」という言葉が本来持つ意味を考えさせられる出来事もあった。VIP席近辺ではプロトコールのボランティアと、警備会社が雇った学生警備アルバイトが同じ場所で勤務する訳だが、初っ端から「警備ラインが内外の不心得者に易々と突破されて、VIP席での後始末が大変」という悲鳴がボランティアの皆さんの中からあがったことがあった。

私は警備の学生さんたちに「一体運営でいこうよ。こちらは君たちのお母さんや姉さんの年代のボランティアだ」と言ったら、学生さんは素直に、却って喜んで協力を約束してくれた。「志」のボランティアを「体力」の学生が護るという強力な現場ができて、すべてがうまく回転していったが、あれは私の弁舌などではなく、学生さんたちのボランティアへの敬意の表れであったと思う、本当にうれしい瞬間であった。

### ■島根県大阪事務所の皆さんのご好意

忘れることができないのは、福原所長以下の島根県大阪事務所の方々のご好意である。実は今だから言えるが、島根県からのボランティア応募はゼロであったところを、所長や旧知の須川主査にご相談（難癖と思われたかも……）したら、4人の若手所員の方々が俠気を發揮して応募いただくという身体を張ってのご協力をいただいた。<sup>あかね</sup>上田周さん、高橋洋靖さん、高橋直之さん、山根康洋さんには心からの感謝を申



島根県大阪事務所の皆さんと



ボランティアの皆さんと

し上げたい。皆さんは私を怨むこともなく、大会終了後の感謝会で口々に「勉強になった、今後の仕事に活かす」と言っていたいてホッとしている次第である。

#### ■ボランティアは日本の社会の良心・希望

大会が終わってからの打ち上げで、ボランティアの皆さんから口々に感謝の言葉をいただき、今後の毎年の同窓会も提案されるほどの盛り上がりとなった。企業にいたときから、日本にボランティア文化・風土が確実に定着しつつあり、その結果の一つとして、あらゆる分野でNPOが新しい社会の担い手として育ちつつあることを感じていたが、あらためてその事実を肌身で体験することができた。

「お上意識の強い」硬直した社会構造をまだ残している日本の社会が成熟した市民社会に育っていくには、個人の意識を高め、個々の多様な能力を発揮できる社会に向かうことが基本になると思うが、それを活かす体制が十分ではないのも日本の現実である。その可能性を求めていくことは決して間違っていないと感じることができ

たことも、私にとっては大きな収穫であった。

#### ■大阪のホスピタリティはなかなか好評

大会終了後の総括では、大阪大会のプロトコールについての海外からの評価は総じて高いことがわかった。大阪人の気取らないホスピタリティはグローバルにも通用したのである。大阪に限らず、日本人全体の「穏やかでやさしく親切」なホスピタリティ能力は、外国人が持つ「フランクで……」というものとは異なると思うが、明らかに世界の中で異質な素晴らしさがあることも再確認できた。もし、島根や松江であれば、もっと素晴らしい評価を得られたのではないかと思うのは私だけであらうか。

私個人にとっても、企業から離れ、これからは一個人としてスタートする時であっただけに、この世界陸上体験は貴重なものとなった。お世話になったすべての方々に感謝しつつ、今後は私が恩返しをする番であることを心に刻んでおきたいと思っている。

## ■追 記

特に以下の方々には、あらためて心からの感謝を申し上げたい。

1. 北高後輩の辰巳悦加選手（高51）……  
（別稿掲載）松江北高の名を天下に高めてくれた。

2. 島根県人が集うお店「へそ」の女将、  
隠岐出身の若松靖子さんと、自称、同  
店営業部長の村尾俊治先輩（高11）…  
…お店のお客さんに辰巳選手へのカン  
パを呼びかけてくれた。

★南森町東南角、北区天神橋2-4-17  
千代田ビルB1 （06-6356-5366）

3. （番外）競技場近くのたこ焼き屋、「た  
こにゃん」……深夜の長居で飢える私  
を救ってくれた。大玉で極上の味、一  
食の価値十分。

★JR阪和線・鶴ヶ丘駅から東に50m  
（06-6608-5689）

毒にも薬にもならない風景

— 大阪のオッチャン —

60代のオッチャンが

ATMでカネを出していた

そこへ知り合いの

40代のオッチャンが

やって来て声をかけた

「ようけ出してるやんか!!

一枚ちょうだい」と

手をさし出した

「一枚でええんかい!!」と

うそぶく60代のオッチャン

「ほんなら十枚おくれ」と

ワル乗りでまた手を出した

60代のオッチャンその手を

平手でパチンと叩き

二人で笑っておしまい

（松高一期 たけうち いちろう）

ジョギングを楽しむ者にとつてフルマラソンは一生に一度やってみたい夢。それを21年余で40回達成した北沢倉庫運送輸取取締役の佐藤満さん（65）。7月23日、武庫川月例マラソンを5時間25分41秒で400回目を走り抜けた。日本で10人目、世界で19人目しか達成していないとか。常人では考えられない偉業。だけに「鉄人」を予想するが、意外なかんじで一般的な庶民のお話を聞いた。（廣瀬）

400回完走を仲間から祝福される佐藤さん

フルマラソン400回達成  
8割の力で楽しく

北辰倉庫運輸  
佐藤さん

マラソンは人生にたとえられる。佐藤さんには「マラソンが私を救った」という字がまじった近頃、切れる人が多

[illegible]

録を指摘していた人が  
いつの間にかマラソン  
から離れていった仲間  
が結構います「ちなみ  
に佐藤さん、04年は年  
間41回、05年は39回フ  
ルマラソンを走ってい  
る。

「さあ、走り始める勇氣が出てきた。」

## ◆◆◆ クラス会便り ◆◆◆

### ◇松中六一会在阪者大会

梅雨空の広がる6月14日（木）、今や貴重な存在となった昭和16年卒の61期生の在阪組4名の同窓会が開かれた。ところは阪急グランドビル28階の「皆美 大阪店」。同窓会とはいえ集まったメンバーはわずか4名。まず元気で清交社撞球クラブで活躍している菊田光男、今や自由な話を楽しんでいる野々内善夫、中村悦夫、児玉治利の4人である。1年1回の懐かしい顔ぶれ。「オウ」と呼べば、「オウ」と答え、1年の

ご無沙汰も即時解消。60数年前のカオに若返り（?）、談論風発の愉快的な一刻を過ごすことが大御馳走の同窓会を楽しんだ。

同窓会後の感想では、やはり年齢は争えないが、まだまだいけそうだというところだったが、メンバーの一人児玉は脳梗塞に倒れ、左手不自由で“書く”ことには支障がないのが、せめてもの救いという状況。「これが人生というものさ」といえば、まさにそれがすべてであり、同窓諸兄の健在を祈って祈ってやまない。

（松中61期）児玉治利



左より 菊田光男さん、児玉治利さん、中村悦夫さん、野々内善夫さん



## ◇松中 68 期クラス会

数えて第30回のクラス会を、松中68期の故をもって、今年も6月8日、松江は「サンラポーむらくも」で開催。出席者32名。

近畿から荒銀昌治君、並河和夫君、と青戸元也の3名が出席。

欠席者の返信から喜寿の齢を越えた今、それぞれ年相応の身体の経年劣化の現状が窺えた。

特記すべきは、荒銀昌治君が日本パイロット協会会長としての永年の功績に対し、このたび「旭日中綬章」の叙勲を受けたことをもって、同期生一同花束を贈り、その栄誉を讃えたことであった。

(松中68期) 青戸元也



前列右より2人目並河和夫さん、3人目青戸元也さん、6人目荒銀昌治さん

## ◇松高7期同窓会

初夏の太陽がまぶしい5月27日、近畿在住の松高7期生の今年の同窓会は、JR大阪駅前阪神百貨店10階にある中国料理の名店“黄老”で開かれました。エレベーターを下りると、もうそこに懐かしい顔々……。

松江から参加の池田弘孝、恵子夫妻を囲んで、すでににぎやかな人の輪ができていました。同じく松江からの森脇義弘さん、埼玉からの中西和義さんも交えて、男性16名、女性6名の計22名が2つの大きな円卓を囲み、美味しいお料理と、和気あいあいの全員による近況スピーチ、こうして元

気で懐かしい友と集える喜びを分かち合い、つかの間を楽しく過ごしました。

故種平滋さん（平成16年急逝）が種を播かれた7期同窓会の輪、その遺志を受け継いでお世話くださる廣政俣彦、山本雅昭さん他の方々に感謝。

正直なところ古希も過ぎた私たち、日頃のお付き合いも見直して身辺を簡素に……と思いますが、多くの方が、日本の故郷としてあこがれる、松江という美しく心暖かな町で共に学んだ思い出と、仲間の輪を大切にして、年に一度こうして集いたいものです。今年参加できなかった方々、来年はぜひ一緒に。

（松高7期）玉井洋子



松高7期同窓会（黄老・平成19年5月27日）



# ◆◆◆◆◆ 近畿双松会ホームページについて ◆◆◆◆◆

ホームページは随時更新中です。ぜひご覧ください。

URL アドレスは <http://www.kinki-soushoukai.org/> です。



会の活動をタイムリーにお知らせするほか、会員相互の交流の場となることを目指して、各期・クラスの情報提供や自由投稿など会員参加型のページ作りに力を入れていきたいと考えています。

ホームページについてのご意見・ご希望等がございましたらページ内のアイコンを使って事務局へメールをお寄せください。

なお、母校松江北高校のホームページは

<http://www.matsuekita.ed.jp/>

です。ぜひご覧ください。



# 平成19年 近畿双松会 総会 議 案

平成19年11月18日

## 事務局だより

|                |                          |                                     |
|----------------|--------------------------|-------------------------------------|
| 平成18年10月10日（火） | 事務局会議開催                  | 18年度総会準備打合せ                         |
| 10月14日（土）      | 〈近畿双松会会員・未会員へ総会案内状の郵送作業〉 |                                     |
| 10月22日（日）      | 〈第1回歴史ウォーキング 山辺の道①〉      |                                     |
| 11月11日（土）      | 〈近畿双松会文楽鑑賞会開催〉           |                                     |
| 11月13日（月）      | 事務局会議開催                  | 18年度総会最終準備打ち合わせ                     |
| 11月26日（日）      | 〈平成18年度近畿双松会総会開催〉        |                                     |
| 12月7日（木）       | 事務局会議開催                  | 19年度基本活動方針案を作成                      |
| 平成19年1月30日（火）  | 新年役員会開催                  | 19年度基本活動方針案について各常任幹事、幹事よりご意見をうかがった。 |
| 2月28日（水）       | 事務局会議開催                  | 19年度基本活動方針案を最終決定した                  |
| 5月21日（月）       | 〈近畿双松会ゴルフ会開催〉            |                                     |
| 6月10日（日）       | 〈近畿双松会文楽鑑賞会開催〉           |                                     |
| 9月12日（水）       | 事務局会議開催                  | 19年度総会準備第1回会合                       |
| 10月1日（月）       | 事務局会議開催                  | 総会準備第2回目会合                          |
| 10月10日（水）      | 〈近畿双松会会員・未会員へ総会案内上の郵送作業〉 |                                     |
| 10月14日（日）      | 〈第2回歴史ウォーキング 山辺の道②〉      |                                     |

以上

## 近畿双松会 会則

第1条 名称 本会の名称を近畿双松会と称す。

第2条 会員資格 近畿地区に在住する旧制島根県立松江中学校、新制松江高等学校及び松江北高等学校の卒業生及び之に準ずる者の内、本会に入会を希望する者を会員とし、教職員であった者を特別会員とする。

なお、近畿以外の双松会員中、本会に入会を希望する者は上記に準じ入会を認める。但し、2年以上会費未納の会員に対しては、役員会の決議により、会員名簿より抹消することがある。

第3条 目的 会員相互の交誼、親睦を図り、母校の発展に寄与する。

第4条 役員 本会に下記の役員をおく。

- |             |           |                |
|-------------|-----------|----------------|
| 1. 会長1名     | 2. 副会長若干名 | 3. 常任幹事若干名     |
| 4. 幹事各期1名以上 | 5. 監事2名   | 6. 常任顧問及び顧問若干名 |

第5条 幹事は通常会員の中から、常任幹事は幹事の中から、副会長及び監事は常任幹事の中から会長が委嘱する。

第6条 会長は本会を代表し、その職務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

監事は本会の会計を監査し、総会にその結果を報告する。

第7条 役員会は、常任顧問、会長、副会長、監事、常任幹事、幹事をもって構成し、会長が召集する。

役員会は役員の選出、予算案、決算案、規約の改正案等の作成および本会の運営にかかわる事項を処理する。

第8条 本会に役員会の推薦により顧問若干名をおくことができる。顧問は役員会の諮問に応じ、会務について意見を具申する。

第9条 役員の任期は2ヶ年とし、重任を妨げない。

第10条 総会 通常総会は原則として毎年11月に会長が召集する。

総会には役員の選出、予算、決算、会則の改正、その他の会務を報告し承認を受ける。

また、必要あるときは、役員会の議を経て会長は臨時総会を召集することができる。

### 附 則

#### 1. 会長の選考について

1. 会長候補の選考については、顧問及び正副会長の合議によって決定する。
2. 会長候補については、役員会及び総会に報告し承認を受ける。

2. 本会則は平成12年11月20日より実施する。



# 会員数一覧表



## 期別会員数

平成18年11月30日現在

|      |     |       |    |       |    |       |    |
|------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 特別会員 | 2   | 松中49期 | 1  | 松高1期  | 19 | 北高1期  | 30 |
| 松江中学 | 62  | 松中50期 | 1  | 松高2期  | 27 | 北高2期  | 13 |
| 松江高校 | 203 | 松中51期 | 1  | 松高3期  | 7  | 北高3期  | 5  |
| 松江北高 | 165 | 松中52期 | 1  | 松高4期  | 2  | 北高4期  | 20 |
| 合計   | 432 | 松中53期 | 2  | 松高5期  | 26 | 北高5期  | 12 |
|      |     | 松中54期 | 2  | 松高6期  | 11 | 北高6期  | 5  |
|      |     | 松中55期 | 0  | 松高7期  | 36 | 北高7期  | 11 |
|      |     | 松中56期 | 1  | 松高8期  | 10 | 北高8期  | 8  |
|      |     | 松中57期 | 1  | 松高9期  | 21 | 北高9期  | 5  |
|      |     | 松中58期 | 2  | 松高10期 | 11 | 北高10期 | 6  |
|      |     | 松中59期 | 3  | 松高11期 | 24 | 北高11期 | 14 |
|      |     | 松中60期 | 2  | 松高12期 | 9  | 北高12期 | 1  |
|      |     | 松中61期 | 6  |       |    | 北高13期 | 3  |
|      |     | 松中62期 | 2  |       |    | 北高14期 | 4  |
|      |     | 松中63期 | 4  |       |    | 北高15期 | 2  |
|      |     | 松中64期 | 4  |       |    | 北高16期 | 6  |
|      |     | 松中65期 | 4  |       |    | 北高17期 | 3  |
|      |     | 松中66期 | 10 |       |    | 北高18期 | 5  |
|      |     | 松中67期 | 2  |       |    | 北高19期 | 3  |
|      |     | 松中68期 | 9  |       |    | 北高20期 | 2  |
|      |     | 松中69期 | 4  |       |    | 北高21期 | 2  |
|      |     |       |    |       |    | 北高22期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高23期 | 3  |
|      |     |       |    |       |    | 北高24期 | 2  |
|      |     |       |    |       |    | 北高25期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高26期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高27期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高28期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高29期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高30期 | 0  |
|      |     |       |    |       |    | 北高31期 | 0  |



# 近畿双松会役員一覧(案)

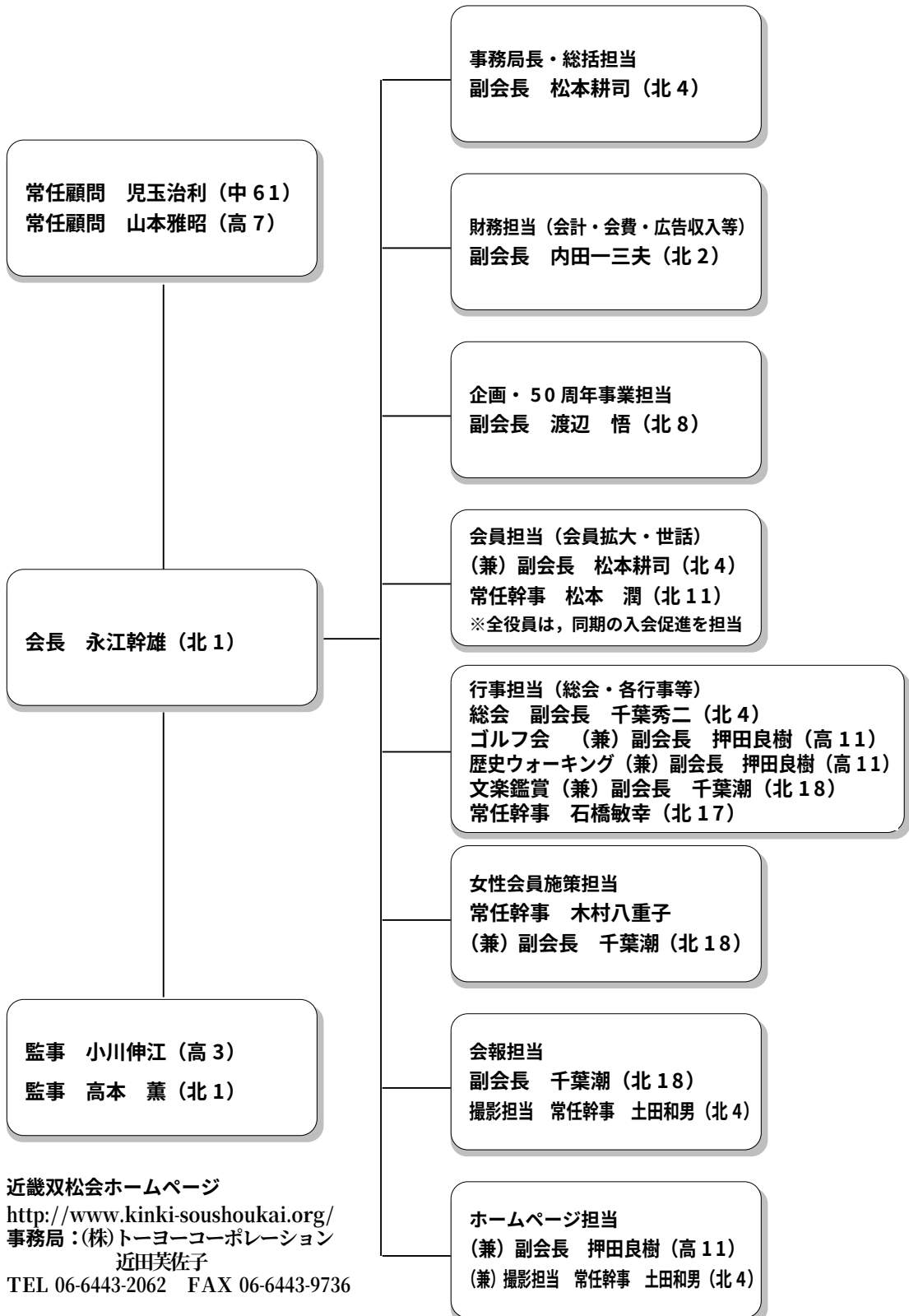


(平成19年11月18日改選予定)

| (役)                  | (期)   | (氏名)    | (役)                 | (期)   | (氏名)    |
|----------------------|-------|---------|---------------------|-------|---------|
| 常任顧問                 | 松中61期 | 児 玉 治 利 | 常任幹事                | 松高11期 | 新 谷 勇 人 |
| 常任顧問 <sup>(新)</sup>  | 松高7期  | 山 本 雅 昭 | 常任幹事                | 松高12期 | 門 脇 州 美 |
| 会 長 <sup>(新)</sup>   | 北高1期  | 永 江 幹 雄 | 幹 事                 | 北高1期  | 森 脇 順 子 |
| 副 会 長                | 高11期  | 押 田 良 樹 | 幹 事                 | 北高2期  | 加 藤 巡 一 |
| 副 会 長                | 北高2期  | 内田一三夫   | 常任幹事                | 北高3期  | 金 坂 喜 好 |
| 副 会 長                | 北高4期  | 松 本 耕 司 | 幹 事                 | 北高3期  | 安 達 和 彦 |
| 副 会 長                | 北高7期  | 千 葉 秀 二 | 常任幹事 <sup>(新)</sup> | 北高4期  | 土 田 和 男 |
| 副 会 長 <sup>(新)</sup> | 北高8期  | 渡 辺 悟   | 幹 事                 | 北高4期  | 梅 木 隆 志 |
| 副 会 長                | 北高18期 | 千 葉 潮   | 幹 事                 | 北高4期  | 三 成 宏 二 |
| 監 事                  | 松高3期  | 小 川 伸 江 | 幹 事                 | 北高5期  | 山 根 律 郎 |
| 監 事                  | 北高1期  | 高 本 薫   | 幹 事                 | 北高8期  | 三 好 資 子 |
| 幹 事                  | 松中59期 | 平 本 澄 夫 | 幹 事                 | 北高10期 | 村 田 貢   |
| 常任幹事                 | 松中61期 | 菊 田 光 男 | 常任幹事 <sup>(新)</sup> | 北高11期 | 松 本 潤   |
| 幹 事                  | 松中62期 | 吉 田 祝 雄 | 幹 事                 | 北高12期 | 岩 間 令 道 |
| 幹 事                  | 松中63期 | 園 山 徳 道 | 常任幹事                | 北高14期 | 松 村 聡   |
| 常任幹事                 | 松中68期 | 青 戸 元 也 | 幹 事                 | 北高14期 | 福 間 則 博 |
| 幹 事                  | 松中68期 | 荒 銀 昌 治 | 常任幹事                | 北高17期 | 石 橋 敏 幸 |
| 常任幹事                 | 松高1期  | 菊田運三郎   | 幹 事                 | 北高17期 | 引野千嘉志   |
| 幹 事                  | 松高2期  | 千 葉 新 一 | 幹 事                 | 北高19期 | 穴 道 弘 志 |
| 幹 事                  | 松高3期  | 緒 形 公 士 | 幹 事                 | 北高19期 | 小 林 満   |
| 幹 事                  | 松高4期  | 須 藤 信 幸 | 常任幹事                | 北高20期 | 門 脇 正 一 |
| 常任幹事                 | 松高5期  | 山 田 稔   | 幹 事                 | 北高20期 | 藤 本 斉 子 |
| 幹 事                  | 松高6期  | 田 村 稔 久 | 幹 事                 | 北高21期 | 柳 井 利 明 |
| 幹 事                  | 松高6期  | 荒木タミ子   | 幹 事                 | 北高21期 | 港 谷 泰 之 |
| 常任幹事                 | 松高7期  | 廣 政 俣 彦 | 幹 事                 | 北高23期 | 池 田 康 郎 |
| 幹 事                  | 松高8期  | 松 下 昭 壽 | 幹 事                 | 北高23期 | 前 田 洋   |
| 常任幹事 <sup>(新)</sup>  | 松高9期  | 木村八重子   | 幹 事                 | 北高23期 | 富 岡 幸 子 |
| 常任幹事                 | 松高10期 | 佐和田 丸   | 幹 事                 | 北高24期 | 森 口 次 郎 |
| 幹 事                  | 松高10期 | 佐 藤 菁 治 | 幹 事 <sup>(新)</sup>  | 北高31期 | 山 根 康 洋 |

# 近畿双松会組織（案）

（平成19年11月18日）



近畿双松会ホームページ

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

事務局：(株)トーヨーコーポレーション

近田美佐子

TEL 06-6443-2062 FAX 06-6443-9736



# ●●●●●●●● 平成19 年度賛助金応募者ご芳名 ●●●●●●●●

(平成18年10月～平成19年9月)

本年も多数の会員より、多額の賛助金を賜り厚く御礼を申し上げます。

当会の発展のために有効に活用してまいります。

近畿双松会役員一同

| 卒 期    | 氏 名    | 卒 期  | 氏 名    |
|--------|--------|------|--------|
| 特別会員   | 八木 幸治  | 松高2期 | 久保田 幸雄 |
| 松中50期  | 西山 要   |      | 神田 田鶴子 |
| 松中53期  | 築 勤    |      | 高田 修志  |
| 松中59期  | 後藤 由郎  |      | 竹森 英二  |
|        | 山本 洋   |      | 千葉 新一  |
| 松中61期★ | 児玉 治利  |      | 長崎 弘   |
|        | 中村 悦夫  |      | 成合 茂博  |
|        | 野々内 善夫 |      | 藤原 美彦  |
|        | 菊田 光男  |      | 枡谷 崇   |
| 松中63期  | 園山 徳道  | 松高3期 | 三原 俊郎  |
|        | 坪倉 修吉  |      | 石倉 道子  |
|        | 肥塚 隆正  |      | 緒方 公士  |
| 松中66期  | 水野 堯之  |      | 小川 伸江  |
|        | 熊野 禮助  |      | 佐藤 藤芳  |
| 松中68期  | 青戸 元也  |      | 竹内 天之  |
|        | 並河 和夫  |      | 永井 彰   |
|        | 荒銀 昌治  | 松高4期 | 須藤 信幸  |
|        | 吉岡 孝夫  | 松高5期 | 客野 伸   |
|        | 長谷川 吉雄 |      | 庄司 勉   |
| 松高1期   | 飯塚 満男  |      | 寺本 尚由  |
|        | 伊藤 雅義  |      | 仁宮 竜聖  |
|        | 宇藤 二男丸 |      | 松吉 孝明  |
|        | 菊田 運三郎 |      | 山田 稔   |
|        | 竹内 一郎  |      | 山本 達郎  |
|        | 林原 信光  | 松高6期 | 荒木 タミ子 |
|        | 二神 守   |      | 萩野 克彦  |
|        | 和田 亮介  |      | 園山 晋也  |
| 松高2期   | 石本 春枝  |      | 田村 稔久  |
|        | 今市 佐恵  |      | 森岡 敏眞  |
|        | 金坂 喜夫  | 松高7期 | 井狩 美知子 |

| 卒 期   | 氏 名    | 卒 期   | 氏 名               |
|-------|--------|-------|-------------------|
| 松高7期  | 後藤 昌平  | 北高1期  | 永江 幹雄             |
|       | 佐藤 任   |       | 深澤 千栄子            |
|       | 高井 和彦  |       | 持田 勲              |
|       | 玉井 洋子  |       | 森脇 順子             |
|       | 望月 修一  | 北高2期  | 内田 一三夫            |
|       | 山本 雅昭  |       | 木幡 晃正             |
| 松高8期  | 黒田 牧夫  |       | 齋藤 丸子             |
|       | 山崎 杲   |       | 古川 幸孝             |
| 松高9期  | 熱田 光信  |       | 三島 幸子             |
|       | 岩成 哲男  | 北高3期  | 金坂 喜好             |
|       | 片岡 美美子 | 北高4期  | 梅木 隆志             |
|       | 木村 八重子 |       | 坪倉 司郎             |
|       | 澄川 光成  |       | 松本 耕司             |
|       | 宋 智海   | 北高5期  | 江角 慎一             |
|       | 山岡 裕明  |       | 山口 悦子             |
| 松高10期 | 面白 紘   |       | 山根 律郎             |
|       | 佐藤 菁治  | 北高7期  | 池田 喜美代            |
|       | 佐和田 丸  |       | 佐々木 勇             |
|       | 竹内 幸子  |       | 千葉 秀二             |
|       | 野津 政人  |       | 三島 薫              |
|       | 松谷 純子  | 北高8期  | 江角 雅明             |
| 松高11期 | 新谷 勇人  |       | 物種 慶子             |
|       | 池尻 和子  | 北高11期 | 松本 幸子             |
|       | 押田 良樹  | 北高12期 | 西原 秀暢             |
|       | 神門 英明  | 北高14期 | 福岡 則博             |
|       | 村尾 俊治  |       | 松村 聡              |
|       | 米澤 伸夫  | 北高15期 | 三浦 清              |
| 松高12期 | 内田 誠   | 北高18期 | 千葉 潮              |
|       | 門脇 州美  | 北高19期 | 穴道 弘志             |
|       | 萩野 貫悟  |       |                   |
| 北高1期  | 石田 淳   | 会員外   | 株式会社米吾<br>細田博之事務所 |
|       | 神田 周平  |       |                   |
|       | 高本 薫   |       |                   |

# 平成19 年度会計決算書

(平成18年10月1日～平成19年9月30日)

(単位：円)

| 収 入 の 部    |           | 支 出 の 部   |           |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| ◎前期繰越金     | 1,232,358 |           |           |
| 会費収入       | 620,000   | 通信費       | 351,970   |
| 賛助金収入      | 635,000   | 事務費       | 129,698   |
| 役員会会費収入    | 87,000    | 慶弔費       | 40,500    |
| 18年度総会会費収入 | 614,000   | 振込手数料     | 40,530    |
|            |           | 役員会議費     | 111,675   |
|            |           | 18年度総会費用  | 610,589   |
|            |           | 18年度会報作成費 | 711,795   |
| ◎収入計       | 1,956,000 | ◎支出計      | 1,996,757 |
|            |           | ◎次期繰越金    | 1,191,601 |
|            |           | 内訳（郵貯定額）  | 0         |
|            |           | （郵貯振替）    | 1,161,570 |
|            |           | （郵貯普通）    | 7,698     |
|            |           | （現金）      | 22,333    |
| 総 合 計      | 3,188,358 | 総 合 計     | 3,188,358 |

上記の通り報告いたします。

副会長（事務局担当） 永江 幹雄 ㊤

副会長（会計担当） 内田 一三夫 ㊤

監査の結果、正確に処理・記帳されている事を認めます。

平成19年10月31日

監 事 小川 伸江 ㊤

監 事 高本 薫 ㊤

## 編集後記

いつまでも暑い日が続いたこの夏。世界陸上大阪大会でも予想外の暑さに実力を発揮できなかった選手も多かったのではないのでしょうか？猛暑のなか、私たちの若き後輩である辰巳悦加選手が出場。惜しくも決勝進出はならなかったものの、健闘されました。本誌にもP. 22から特集を組みました。皆さんのご感想はいかがだったのでしょうか？

日本の気候変動に気をもむ夏は過ぎ、この小冊子がお手元に届く頃には秋霜も降りていることと思います。気候変動のみならず情報の変化もすさまじく、インターネットを無視するわけにはいかない時代になりました。この近畿双松会報もHPとリンクさせ、速報性と公開性を追求しています。

ところで過日、あるジャーナリストと知り合いました。読売新聞の記者だった故・黒田清さんの「黒田ジャーナル」の流れをくむミニコミ誌を主宰しているとのこと。ネット隆盛の時代、なぜ活字メディアにこだわるのかと尋ねると、

「戦争体験世代の方の投稿が多いから」と答えが返ってきました。きな臭い世の中に警鐘を鳴らすため自らの体験を伝えようという思いをもつ人が多いのでしょう。

折しも、この会報にも先輩の山本洋さん（中59期）より学徒出陣のご体験、千葉新一さん（高2期）より、学制改革直後の母校の様子などが投稿されていたので、私も意を同じくいたしました。

社会の将来を考え、人類の幸福を追求するのに歴史を学ぶことは欠かせないことでしょう。たとえ立派な書物にならずとも、近畿双松会報やミニコミ誌もその責を担っています。この先もこの冊子が皆様の交流や学びに役立つ存在でなければと、改めて感じています。

皆様のご体験、また紀行文、エッセーや詩歌などをぜひお寄せください。ネットと両輪で充実させていきたいと思います。心からお待ちしております。

（会報編集担当：千葉 潮）

### 近畿双松会慶弔規定

本会員の慶弔に際しては、下の如く、本会の名において敬意を表することとする。

#### （一）慶祝の場合

- 一、個々の慶祝は不問とする。
- 一、特に必要ある場合は、会長、常任幹事協議の上適当に執行する。

#### （二）敬弔の場合

- 一、正会員の場合、一律五千元の香料を供える。  
正会員とは、年間会費を納めあるものをいう。
- 一、その他の場合、会長、常任幹事に諮り、適宜敬弔を行う。

### 近畿双松会報 平成19年度(2007年)版(通巻49号)

発行日：平成19（2007）年11月18日

編集兼発行者：近畿双松会

発行所：近畿双松会事務局

所在地：〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35

(株)トーヨーコーポレーション内

TEL 06-6443-2062 FAX 06-6443-9736

郵便振替口座：00910 - 0 - 103665

近畿双松会事務局

制 作：アルゴ

印 刷：(株)NPC コーポレーション

毎日新聞は言論の自由独立を確保し、  
真実敏速な報道と公正な世論の喚起を期する

(毎日憲章の一部)



21世紀への指針

# 毎日新聞

毎日新聞大阪本社

大阪市北区梅田3-4-5  
TEL 06 (6345) 1551

社友  
児玉 治利 (61期)

接着一筋半世紀……

# ライフボンド

独自の技術で未来を拓く

優良企業認定法人

## 日栄化工株式会社

代表取締役会長 並河 和夫 (松中68期)

本社：東大阪市荒本北193-1 TEL 06-6746-1741 (代表)  
東京支社：埼玉県川口市朝日5-8-3 TEL 048-227-3045 (代表)  
三重工場：三重県伊賀市寺田字前坂1348-1 TEL 0595-24-6773 (代表)



衆議院議員

細田 博之

事務所  
電話 松江市堂形町八八一  
FAX 〇八五二(二二) 六四五  
〇八五二(二二) 六四五

し寿門衛左吾米



米屋 吾左衛門(ござえもん) 寿し本舗



ホテルハーベストイン米子

株式会社 米吾  
代表取締役会長  
内田 健二郎

●米吾本社  
鳥取県米子市弥生町八-二七  
TEL (0859) 33-2221 (代)  
FAX (0859) 33-2226  
<http://www.komego.co.jp/>

●ホテル部  
TEL (0859) 31-1111 (代)  
FAX (0859) 33-2222

福間法律事務所

弁護士 福間 則博  
松江北高 14 期 (昭和 50 年卒)

事務所：〒665-0845  
宝塚市栄町 2 丁目 2 番 1 号ソリオ 3 (5 階)  
TEL 0797-87-5606  
FAX 0797-87-7160  
<http://www.fukuma-law.com/>

医療法人  
坪倉産婦人科

理事長

坪倉 修吉  
(63 期)

院長

坪倉 省吾

〒五七八-〇九四二  
東大阪市若江本町一-三-二二  
☎ (六七二二) 八五五八

ワンルーム・マンション

## 「グリーンハイツ小川」

松江市西茶町101

小 川 伸 江 (松高3期)

管理委託先 不動産システム(株)

本 社 松江市浜乃木2丁目5-18

セントラルコート1F

TEL 0852-31-3333

サティ店 松江市東朝日町151 松江サティ内

TEL 0852-28-3333

ゴルフ練習場&ゴルフショップ

## ゴルフアベニュー松江

藤 原 美 彦

(松高2期)

〒690-0011 松江市矢田町二四七-1

(国道九号線バイパス沿い)

電話 〇八五二(二一八) 〇〇三八

ファイナンシャル・プランナー

内 田 一 三 夫

(北高2期)

垂水神社宮司

竹 内 天 之

(松高3期)

〒619-0237

吹田市垂水町一丁目二四十六  
〇六(六三八四)一五二六

啓光印刷株式会社

代表取締役 竹 内 一 郎

(松高1期)

〒531-0071

大阪市北区豊崎一丁目二二

TEL(06)六三七二二六〇六

FAX(06)六三七二二六〇六二

園山晋也税理士事務所

税理士 園山 晋也

(松高6期)

〒650-0022 神戸市中央区元町通四丁目六番二〇号  
ライオンズクラブザ元町二〇七号  
☎ 〇七八一三六一五四一九  
FAX 〇七八一三六一五四一九

竹 森 英 二

(松高2期)

〒551-0634 吹田市山田西一十五十二  
TEL (06) 6877-3639

毎日新聞 大阪本社

顧問 児玉 治利

(61期)

〒578-0972

東大阪市鴻池町一十二番三三  
☎ 〇六(六七四)八〇五〇

株式会社 明和

代表取締役会長

園 山 徳 道

(63期)

〒560-0056

豊中市宮山町二二三一七  
☎ 〇六(六八五五)六五五三

山 本

(59期) 洋

〒666-0112

川西市大和西三丁目二八番地の二  
☎ 〇七二(七九四)二七五二

あなたの瞳を演出する  
メガネの **やまもと**

山 本 達 郎  
(松高5期卒)

加古川店／  
JR 加古川駅前カピルそごうビル 2F  
☎ (0794) 22-5965 23-0856

東加古川店／高砂店／土山店  
宝殿店／別府店／ジャスコ土山店  
平岡店

飯南はいいな いのち彩る里飯南町

関西 <sup>とんぼら</sup> 頓原会  
会長 佐和田 丸  
(松高10期)



● 〒573-1182  
大阪府枚方市御殿山町11-33-610  
TEL・FAX 072-848-7417  
E-mail: malu122@nifty.com  
飯南町 <http://www.iinan.jp/>

● 松江事務所  
佐和田ひとし登記測量事務所  
〒690-0151  
松江市古曾志町567-174  
(一畑電車朝日ヶ丘駅北へ5分)  
TEL 0852-36-6589 FAX 0852-36-6227

背景は島根県民の森大万木山(おおよろぎさん、上)  
出雲富士引山(下)、好眺望地は飯南町頓原のエル  
シードライブインー帯

高 本

(北高1期) 薫

〒534-0024

大阪市都島区東野田町三七十七  
☎ 〇六(六三五)〇八九六

永江 幹雄  
(北高1期)

〒651-1212  
神戸市北区筑紫が丘5-19-17  
TEL 078-583-4162



レディスクラブ同

今市佐恵 (松高2期)  
 小川伸江 (松高3期)  
 石倉道子 (松高3期)  
 井狩美知子 (松高7期)  
 門脇州美 (松高12期)

新谷勇人法律事務所

弁護士

新谷 勇 人

(松高11期)

〒530004 大阪市北区天神橋二丁目15番4号  
 TEL(06) 6882-0891  
 FAX(06) 6882-0892



自分史・歌集・句集・作品集・会報などの  
 企画から出版まで、お手伝いいたします。

●●●●●企画・編集・出版●●●●●

編集・出版コーディネート **アルゴ**

代表 千葉 潮 (北高18期)

info@argo-e.com

〒560-0082 豊中市新千里東町2-6 A41-107

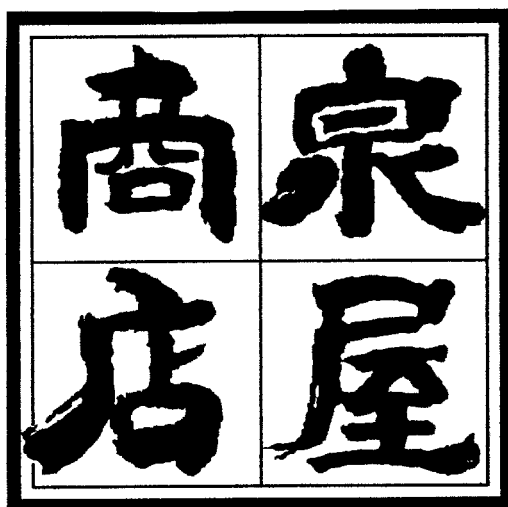
TEL. 06-6832-8380 FAX. 06-6832-8385

# こだわり一夜干し

これは!といった山陰の魚だけを、恵曇の潮風で丹精いたしました。本物の味をお届けします。

ご贈答・お歳暮・お中元に・・・

創業天保年間



<sup>え</sup>恵 <sup>とも</sup>曇 港

島根県八束郡鹿島町恵曇港

TEL. 0852-82-0015/0056 FAX. 0852-82-2700

URL : <http://etomo-izumiya.com/>

(松高7期 山本雅昭)